



GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2024

Go Global

—平和な世界をつくるために

東京大学理事・副学長 林 香里



2020年春から始まった新型コロナウイルスの世界的な影響はようやくおさまりましたが、世界の安定が回復したわけではありません。残念ながら各地でさまざまな対立と衝突が繰り広げられ、多くの人びとの平和と幸福が奪われる状況が続いています。

私たちはもう一度、世界に目を向け、多様な価値が交差し、共存する社会を模索しなければなりません。世界中に深い亀裂と分断がみられるこの状況下、東京大学が提供するたくさんの国際交流の機会を利用しながら、人やモノのグローバリゼーションとはどういうことか、他者との対話と共感をいかに育むか、平和で平等な社会をいかに実現するべきか等、21世紀の世界が直面する課題について主体的に考えて頂きたいと願っています。

異なった生活習慣の体験、新しい友だちづくり、外国語の習熟、さらには興味深い研究テーマの発見等、若いうちの海外留学は、まさにライフ・チェンジング・エクスペリエンスです。将来、世界の舞台で活躍するための基盤となる、貴重で一生の宝ものになることまちがいないです。在学中にかげかえのない国際体験をして、グローバルな知識と感性を磨いてください。

今こそ世界に目を向けて

東京大学副学長・グローバル教育センター長 矢口祐人



グローバル教育センターは東京大学の学生の国際化を徹底的にサポートする組織として2023年4月に設立されました。

私たちは「グローバル教育コンシェルジュ」として、国際総合力認定制度（Go Global Gateway）、グローバルリーダー育成プログラム、国際研修や全学交換留学、Dialogue at UTokyo GlobE等、多様な国際交流活動をキャンパス内外で展開し、東京大学の学生がグローバルな姿勢を磨くために必要な情報と機会をたくさん提供しています。

あわせて後期課程生向けに英語で行われる少人数授業「グローバル教養科目（Global Liberal Arts Courses）」も開講しています。SDGs関連のテーマについて、世界の留学生とともに英語で考え、英語で発表する力を鍛える授業です。

これからの世界で活躍するには、現代の社会を区分するさまざまな境界（ジェンダー、民族、言語、宗教、国籍等）を理解する想像力と対話力が不可欠です。平和が脅かされる事態が世界各地で頻発する今こそ、多様な他者の存在を意識し、ダイバーシティとインクルージョンの大切さと難しさを感じる必要があります。

グローバル教育センターはそのための知識と感性を育むためにあります。センターが提供する海外留学情報ウェブサイト「Go Global Website」(<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/index.html>)をぜひ活用してください。

CONTENTS

はじめに

—留学・国際交流を成功させるために—
..... p2-4

I 留学・国際交流プログラムの紹介

..... p5-37

1. 留学・国際交流プログラム
(グローバル教育センター担当) p6-23

1) 全学交換留学(USTEP) p6-11

2) 学期単位のプログラム p12-13

3) 全学短期派遣プログラム p14-19

4) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)
..... p20-23

2. 留学・国際交流プログラム
(その他のプログラム) p24-37

1) GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成
プログラム p24

2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」および
後期課程「後期国際研修」..... p25

3) 体験活動プログラム p26

4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム
(UGIP) p27-28

5) 学内でできる国際体験 p29-32

6) 各学部・研究科の取り組み p33-37
①学部・研究科間交換留学 協定校一覧 p33-35
②各学部・研究科によるプログラム p36-37

特設コラム

Dialogue at UTokyo GlobE
..... p38

II 留学・国際交流関連情報

..... p39-53

1. 情報収集方法 p40-41

2. 留学にかかる費用と奨学金 p42-45

1) 費用と奨学金例 p42-43

2) 支援者からのメッセージ p44-45

3. 留学における学籍・単位認定 p46-47

4. 語学能力検定試験 p48

5. 安全と危機管理 p49

6. 留学と就職活動 p50

7. 卒業後の大学院留学 p51

8. よくある質問 p52-53

はじめに ー留学・国際交流を成功させるためにー



計画を立てよう

東京大学の中ではもちろん、大学外でも留学・国際交流プログラムを目にする機会がたくさんあると思います。自分がいま、どのようなプログラムに参加したいか、はっきりと決まっていますか？プログラムへ応募する前に、目的やスケジュールをよく考えて計画を立てましょう。

留学経験者の
声を読む



●プログラムに参加する目的は？

プログラムによって、学習内容や活動内容が異なります。「自分の専攻分野に関する知識を深めたい!」「専攻以外の分野を広く学びたい!」「海外で通用する語学力を身につけたい!」等、在学中の限られた期間で何を達成したいのか、自分の目的とプログラムの趣旨を照らし合わせてみましょう。

参考に見よう／

留学経験者の声からヒントを得よう

各プログラムのページで内容を確認しよう

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

p20

●プログラムの実施期間・時期は？

1週間の短期プログラムから、1年間海外の大学で学習・研究する留学等、期間は様々です。また、夏休み等の休暇を利用したプログラムや、大学内でお昼休みに開催されるプログラム等もあります。自分の授業計画やカリキュラム等と照らし合わせてみましょう。

参考に見よう／

各プログラムのページで実施期間・時期を確認しよう

全学交換留学 (USTEP) 募集サイクル

p6

●自分の予算とプログラム費用は？

プログラムには参加費無料のもの、奨学金付きのもの等もあります。プログラムの要項等から費用を確認しましょう。また、外部団体の奨学金に応募することも可能な場合があります。留学等へ申請する前から応募可能な奨学金もあるため、プログラムの募集スケジュールと奨学金の募集スケジュールをよく確認しましょう。

参考に見よう／

各プログラムのページで費用を確認しよう

留学にかかる費用と奨学金

p42



情報を集めよう

自分に適した留学・国際交流プログラムを見つけるために、情報収集はとても大切です。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。また、実際にプログラムに参加した学生の体験談等も貴重な情報源です!

●所属学部・研究科で情報を集めよう

各学部・研究科にて、様々な国際交流プログラムや学部・研究科間交換留学等も行われています。各プログラムの情報を集めるだけでなく、留学に際して重要となる単位認定、学籍、授業履修等の相談もしておきましょう。

参考に見よう／

各学部・研究科の取り組み

p33

留学における学籍・単位認定

p46

●タイムリーに情報を集めよう

どの学部・研究科の学生でも応募することができるグローバル教育センターが担当するプログラムの情報やイベント情報等は、「Go Global ウェブサイト」やUTAS掲示板等で発信しています。タイムリーに情報が届くSNSも活用して、最新情報を集めるようにしましょう。

Go Global
ウェブサイト
に
アクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

参考に見よう／

情報収集方法

p40

●直接話して相談しよう

春の留学フェア、秋の留学説明会等のイベントに参加してみましょう。様々なプログラムの詳細な情報を得られるだけでなく、留学を経験した学生に直接相談できるチャンスです。



2023年春の留学フェアの様子



応募条件をクリアしよう

応募したいプログラムが決まったら、プログラム募集要項等で応募資格・条件を確認しましょう。プログラムによっては、語学能力等の条件を満たしている必要があります。計画的に応募資格・条件をクリアしましょう。

●応募資格・条件の例

語学能力

プログラムが定める語学試験を受け、求められた基準に達している必要があります。試験によっては年に数回しか受験できないもの、結果・スコアが出るまでに時間がかかるものもあるため、計画的に受験しましょう。

学業成績

留学プログラムや奨学金の選考では学業成績が考慮される場合がほとんどです。ただし、選考は総合的に行われることも多いので、積極的にチャレンジしてください!

東京大学への在籍

東京大学が企画・募集するプログラムの多くで、プログラム期間を通して在学していることや卒業・修了しないことを条件としている場合があります。事前に募集要項をよく確認しましょう。

その他

プログラムによって、年齢、学年、専門分野、今までに履修した授業等、細かい条件が定められている場合があります。

参考に見よう／

各プログラムのページで条件を確認しよう

語学能力検定試験

p48

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

東京大学のすべての学部学生が、世界の多様な人々と共に生き、共に働く力である「国際総合力」を伸ばすことを支援するための制度です。様々な国際的な活動に取り組み、レポートを提出すると、「国際総合力認定証」が授与されます。認定を受けると、大学が実施する認定者限定の特別プログラムに参加することもできます。また、認定証は、就職活動や大学院進学の際に、自分の国際的な能力を示す客観的な証明として活用することもできます。

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) について

p20

グローバル教育センターの紹介

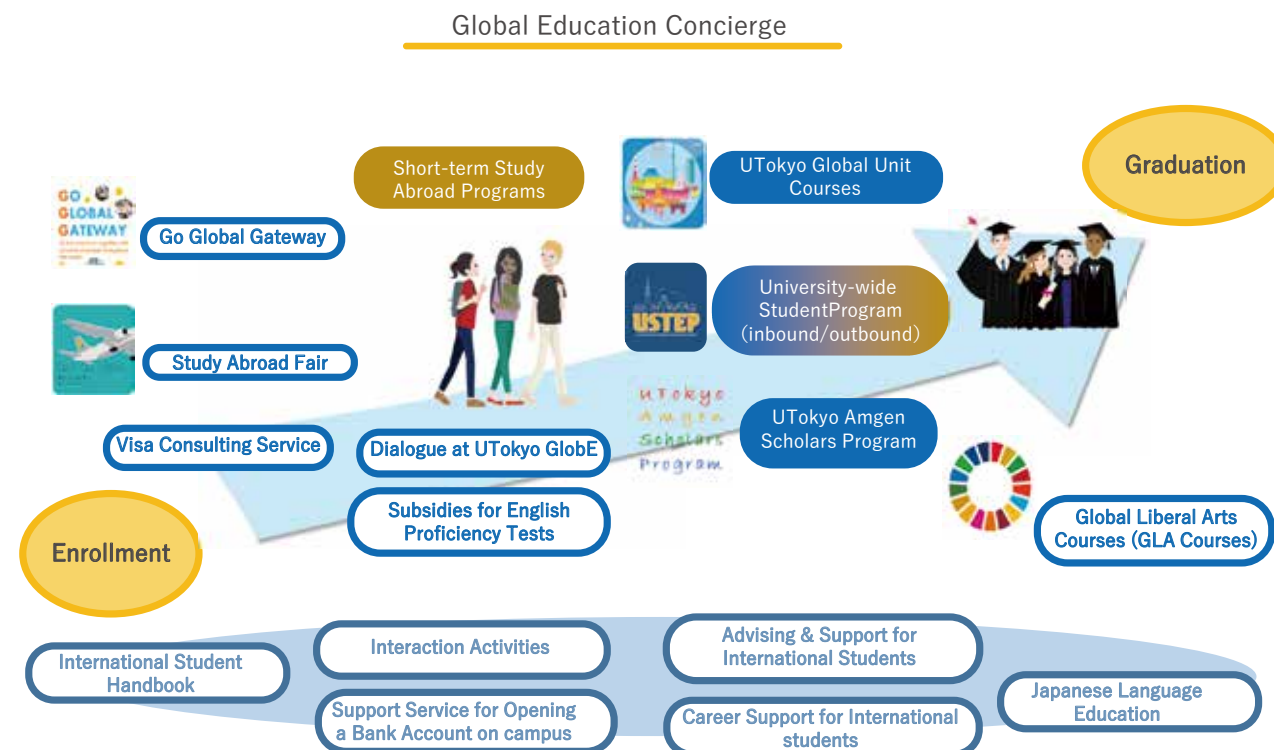


グローバル教育センター(UTokyo GlobE)は2023年4月に、東京大学の学生の国際化をサポートするための学内共同教育研究施設として設立されました。UTokyo GlobEはすべての学部生・大学院生のための「国際化教育の全学プラットフォーム」として、学内の部局や関連部署と協働・連携し、さまざまな国際教育プログラムを学生の皆様に提供します。

たとえば、UTokyo GlobEではすべての後期課程・大学院学生が履修できる「グローバル教養科目」を提供しています。同科目では主にSDGsに関することを英語で学びます。さまざまな専門や文化背景、国籍を有する学生が世界の喫緊の課題を共に考え、議論する良い機会となります。

それ以外にも、学部入学者全員が登録する「国際総合力認定制度」を展開し、東京大学のグローバル教育を支える「グローバル教育コンシェルジュ」として、すべての学生の国際化を入学から卒業まで徹底的にサポートする役割を担っています。

UTokyo GlobEは、東大からの留学、東大への留学等を通じて、住み慣れた地域とは異なる場所で生きる人々や文化と出会うための機会を提供していきます。UTokyo GlobEを通して、学生みなさんが多様な考えや価値観に出会い、それらを理解し、尊重する姿勢を育むことを期待しています。



I 留学・国際交流プログラムの紹介 p5-37

1. 留学・国際交流プログラム(グローバル教育センター担当) p6-23

- 1) 全学交換留学(USTEP) p6-11
- 2) 学期単位のプログラム p12-13
- 3) 全学短期派遣プログラム p14-19
- 4) 国際総合力認定制度(Go Global Gateway) p20-23

2. 留学・国際交流プログラム(その他のプログラム) p24-37

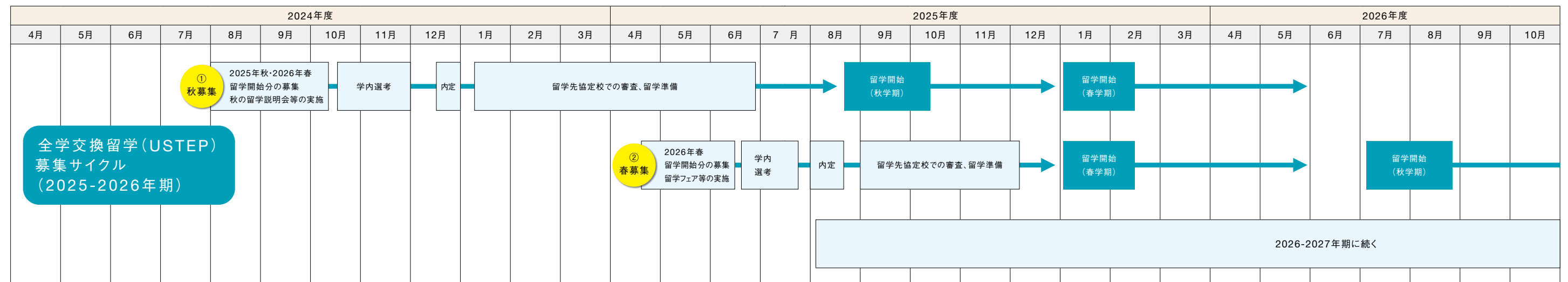
- 1) GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム p24
- 2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」 p25
- 3) 体験活動プログラム p26
- 4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP) p27-28
- 5) 学内でできる国際体験 p29-32
- 6) 各学部・研究科の取り組み p33-37
 - ① 学部・研究科間交換留学 協定校一覧 p33-35
 - ② 各学部・研究科によるプログラム p36-37

1) 全学交換留学(USTEP)

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

②春募集(秋募集の翌年の4～6月頃): 翌年の春学期留学開始分を募集^(※3)

※3 前年度の秋募集で余った派遣枠および春募集までに加わった新規協定校の派遣枠を募集します。



※本ページの情報は全学交換留学のものであり、学部・研究科間交換留学については、学部・研究科ごとに異なります。

東京大学の協定校は世界的に評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しています。

留学先の授業料が不要になる代わりに、東京大学の授業料は納める必要があります(※4)。

宿舎を優先的に確保してもらえたり、留学生用カウンセリングを受けられたり等、特段の配慮をもらえるケースがあります。

協定校で取得した単位が東京大学の単位として認定される可能性があります(※5)。

支給額は年度や地域によって異なりますが、月5～10万円ほど支給されます。また、東京大学や民間財団等が募集する他の奨学金への応募も可能です(p42-43参照)。

●留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者。留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外です。

●協定校が定める交換留学生の資格・条件を満たす者（語学能力、所属学部・研究科、学年等）。

書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・申請書の記述内容や面接等が総合的に考慮されます。

学内選考を通過した学生は、協定校が定める申請書類を作成します。東京大学が留学先の協定校へ学生を推薦し、協定校で審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定です！

※4 留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料を納める必要があります。大学院学生の場合、その活動の実態により「留学」または「研究指導の委託」の手続きを取る必要があります。

※5 認定の基準は各学部・研究科により異なり、履修した科目によっては認定されない場合もあります。留学時の所属学部・研究科の担当部署に事前に相談しましょう(p47参照)。



全学交換留学体験記はこちら

全学交換留学等経験者のインタビューはこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/career-why.html>

全学交換留学協定校一覧

国・地域	協定校	対象
台湾	国立陽明交通大学	学部/院
台湾	国立台湾大学	学部/院
中国	上海交通大学	学部/院 (M)
中国	清華大学	学部/院
中国	浙江大学	学部/院
中国	南開大学	学部/院
中国	南京大学	学部
中国	復旦大学	学部
中国	北京大学	学部/院
香港	香港大学	学部/院
香港	香港科技大学	学部
インドネシア	インドネシア大学	学部
インドネシア	ガジヤマダ大学	学部/院 (M)
韓国	高麗大学校	学部/院 (M)
韓国	ソウル大学校	学部/院
韓国	浦項工科大学校	学部/院
韓国	延世大学校	学部/院
マレーシア	マラヤ大学	学部/院 (M)
フィリピン	フィリピン大学	学部/院 (M)
シンガポール	シンガポール国立大学	学部
シンガポール	ナンヤン工科大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ブラジル	サンパウロ大学	学部/院
チリ	チリ大学	学部/院 (M)
チリ	チリ・カトリック大学	学部/院 (M)
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	学部/院
メキシコ	メキシコ国立自治大学	学部/院
イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学	学部/院
トルコ	ボアジチ (ボスフォラス) 大学	学部/院
カナダ	トロント大学	学部/院
カナダ	ビクトリア大学	学部
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
カナダ	マギル大学	学部
米国	イェール大学	院
米国	伊利ノイ大学アーバナ・シャンペーン校	学部
米国	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	学部/院
米国	ジョンズ・ホプキンス大学	学部
米国	スワースモアカレッジ	学部
米国	ノースイースタン大学	学部
米国	ノースウェスタン大学	学部
米国	プリンストン大学 (学部)	学部
米国	プリンストン大学 (大学院)	院
米国	ワシントン大学	学部
オーストラリア	アデレード大学	学部/院 (M)
オーストラリア	オーストラリア国立大学	学部
オーストラリア	クィーンズランド大学	学部/院 (M)
オーストラリア	シドニー大学	学部/院 (M)
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	学部/院

※院 (M) は修士のみ

国・地域	協定校	対象
オーストラリア	メルボルン大学	学部/院
オーストラリア	モナシュ大学	学部/院 (M)
ニュージーランド	オークランド大学	学部/院 (M)
ニュージーランド	オタゴ大学	学部/院 (M)
デンマーク	コペンハーゲン大学	学部/院 (M)
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院 (M)
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院 (M)
フランス	グルノーブル・アルプ大学	学部/院 (M)
フランス	EHESS (社会科学高等研究院)	院
フランス	ストラスブール大学	学部/院
フランス	パリ政治学院	学部/院 (M)
ドイツ	ケルン大学	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクスミリアン大学	学部/院
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	学部/院
アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	学部/院
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	学部/院
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院 (M)
オランダ	ライデン大学	学部/院 (M)
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院
スペイン	マドリード自治大学	学部/院
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルム大学	学部/院
スウェーデン	ルンド大学	学部/院 (M)
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	学部/院
スイス	チューリッヒ大学	学部/院
英国	ウォーリック大学	学部
英国	エクセター大学	学部
英国	グラスゴー大学	学部/院 (M)
英国	サウサンプトン大学	学部
英国	シェフィールド大学	学部
英国	ダラム大学	学部
英国	マンチェスター大学	学部
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	学部/院 (M)
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	学部/院 (M)
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリ ティカル・サイエンス	学部

※2024年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。※過去の派遣実績等はGo Globalウェブサイト(https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html)に掲載しています。

派遣実績は
こちら



全学交換留学 体験記



氏名：高橋 誠さん
所属・学年 (留学開始時)：工学部3年
留学先大学・学部：マギル大学 Department of Mining and Materials Engineering
留学期間：2022年8月～2023年5月 (10ヶ月間)

ケベック州は公用語のフランス語を大切にしています。例えばKFCはフランス語の省略形PFKと表示されていました。ただ、街では英語が通じるため、私のフランス語能力は上達しませんでした笑

勉強目的のみでない留学という選択肢 (友人500人作りました)

①留学を決めたきっかけ

留学に興味はあったものの、普通の成績だから無理だと諦めていました。しかし、外の世界を知らず漠然と東大で学ぶことへの不安と時間がある大学生のうちに留学に挑戦することの魅力を引きかけに、留学を決めました。

②留学先での勉強内容

専攻に拘らず自由に履修しました。鉱物採掘の授業と現代倫理の授業が特に面白かったです。前者ではカナダの一大産業である鉄や金の採掘方法を学び、実際に金鉱山の地下に行き、採掘を見学する経験もできました。後者では、人種や性的同意、ビーガンの是非など幅広い現代問題について現地の学生と議論することができました。

③留学先を勧める点

退屈することはありません。フランス文化の残る美しい街で、様々な国の料理を楽しみ、世界中から集まる学生と学び、遊ぶことができます。また、大学や学生主催のイベントも多くあります。冬は寒いですがスケートやスノーボードを毎週楽しむことができます。長期休暇には野生の鹿を見たり、オーロラを見ることもできました。

留学に行けて本当に良かったと思っています。500人の友人を作ったり、－40度を体験したり、寮のネズミを協力して捕まえたり、多くの思い出があります。そんな私は今この原稿をカナダへ向かう機内で書いています。留学後も戻って来たいと思える繋がりができる点が長期留学の魅力だと思います。

しかし、留学は大きな決断で、1人で情報収集や書類作成をするのはとても大変でした。自分自身が困っていた経験を活かし、留学支援団体「東大留学GoGo」を作ったので、ぜひ何でも相談してください。留学はみなさんの今後の財産になるのに、行動せずに留学を諦めるのはもったいないです。少しでも興味がある人はぜひ行動に移してみてください。

・家賃/寮費 (光熱費含む)	12万円/月
・食費	5万円/月
・渡航費	20万円
・娯楽費 (旅行等含む)	60万円
・その他 (教科書代・保険代等)	8万円
・プログラム付属の奨学金	0万円/月

費用と奨学金

全学交換留学 体験記



氏名：大谷 朗子さん
所属・学年 (留学開始時)：法学部3年
留学先大学・学部：シンガポール国立大学 人文社会科学部
留学期間：2022年8月～2023年5月 (10ヶ月間)

1年を通じて様々な民族のイベントを楽しむことができました。インド系のディババリ、中華系の中秋節や旧正月、マレー系のラマダン明け…そのたびに街が活気づくので気分も上がります。

新しい世界に飛び込んで、発見の連続の日々

①留学を決めたきっかけ

NUSは東南アジア諸国の歴史や外交に関する授業が充実しています。以前からアジア外交に関心があったため、これらの授業を通じて日本のアジア地域における立場について理解を深めたいと考え留学を決めました。

②留学先での勉強内容

社会学や政治学、歴史学の授業を履修しました。特に東南アジア植民地化の歴史を学ぶ授業では、日本と東南アジアの関係性を歴史的文脈から客観的に捉えなおすことができました。その上で日本が国際社会において、とりわけアジアの一国として果たすべき責任を考察できたのは、この留学の収穫の一つです。

③留学先を勧める点

世界トップレベルに治安が良く、公共交通機関も充実していてとても生活しやすい環境です。多民族国家で文化や言語の違いに寛容ですし、様々な価値観に触れることができ視野が広がると思います。キャンパス内の学生寮では交流イベントも盛んです。交流を深めつつ、メリハリをもって勉強に取り組みたい方におすすめです。

NUSの学生たちはコミュニケーションに積極的である上、各自の価値観に関わるような話題まで話が及ぶこともしばしばありました。当初は圧倒されていた私も、違いに寛容な雰囲気の中で自らの考えを言葉にし、コミュニケーションを重ねて信頼関係を築くことの楽しさを実感していきました。

留学の学問的意義は人それぞれだと思います。それでも、新しい世界に飛び込んで、発見の連続の日々を楽しむと思うことは誰しもに共通するのではないのでしょうか。新たな物事を知るときの高揚感がさらなる知識欲につながる。学びに対する自らの姿勢そのものを問いなおすという点で、留学には何にも代えがたい意義があると思います。

・家賃/寮費 (光熱費含む)	8万円/月
・食費	1.5万円/月
・渡航費	20万円
・娯楽費 (旅行等含む)	25万円
・その他 (教科書代・保険代等)	15万円
・奨学財団からの奨学金	10万円/月

費用と奨学金

全学交換留学 体験記



氏名：藤川 由衣さん

所属・学年（留学開始時）：教養学部文科一類1年

留学先大学・学部：モナシュ大学 Faculty of Arts

留学期間：2023年2月～2023年11月（10ヶ月間）

大学のあったメルボルンはコーヒーが有名で、週末にはよく友達とカフェ巡りをしていました。カフェで毎回違うカスタムを試すのが日々の小さな楽しみでした。

自分の可能性を広げた経験

①留学を決めたきっかけ
昔から海外に興味があり、交換留学であれば大学のサポートも得られ安心だろうと思い留学を決めました。留学での経験をその後の大学生活にできるだけ活かしたかったので、大学入学後すぐ応募しました。

②留学先での勉強内容
Faculty of Artsに所属し、法律や社会学、倫理学など、社会科学や人文科学の授業を幅広く受講していました。日本と同じような内容の授業でも、違った視点から授業が行われていたり多様なバックグラウンドや前提知識を持った生徒とのディスカッションがあったりと、とても刺激的で興味深かったです。

③留学先を勧める点
大学や寮ではイベントが沢山開催されるので友達も作りやすいですし学期中も楽しく過ごせます。また、オーストラリアは移民や留学生が多く、外国人の私たちにとっても暮らしやすい国で、特に初めて海外に行かれる方におすすめです。都会と自然のバランスが良く、とてもリラックスして10ヶ月過ごせました。

最初は課題をこなすだけで精一杯で必死だった授業も、日を重ねるにつれ少しずつ授業中にも発言できるようになり、より授業も楽しめるようになりました。アルバイトや日本語教師のボランティアなど授業以外の活動も貴重な経験となりました。友達との会話や寮での共同生活など、日々の生活の中でも文化の違い等を感じることがあり、刺激的で充実した毎日でした。また、留学中は様々なバックグラウンドを持つ人と話して多様な価値観に触れることが多く、自分と向き合う機会も増えました。留学前は進学選択での希望学部すら定まっていなかった私でしたが、留学が終わる頃には自分のやりたいことや興味のあることがより明確になりました。

・家賃/寮費（光熱費含む）	11万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	25万円	
・娯楽費（旅行等含む）	60万円	
・その他（教科書代・保険代等）	10万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：坪山 倫さん

所属・学年（留学開始時）：文学部3年

留学先大学・学部：パリ政治学院パリ校（Sciences Po Paris）

留学期間：2022年8月～2023年6月（10ヶ月間）

自分の留学中は円安と物価高による財布への大打撃が日々のストレスでした。パリなどの大都市には日本食屋が少なくないので、（そこでもお金を使うことにはなりますが）食べて解決しましょう。

自己相対化と旅行の愉しみ

①留学を決めたきっかけ
東大入学前から留学への関心は高く、コロナ禍で過ごした1・2年次における海外経験の欠如への悔しさも手伝い、参加を決めました。人文社会系教育の強さ、および言語の将来的有用性に鑑み、留学先を選びました。

②留学先での勉強内容
最も力を入れたのはフランス語です。基礎も出来上がらぬまま渡航したので、ABCから学び始め、最終的には日常会話をある程度こなせるレベルには達しました。専門である社会学系の講義の他、もともと関心の高かった政治哲学の文献購読なども受講しました。また課外活動として、軽音サークルでのアカペラにも献身しました。

③留学先を勧める点
学生身分を利用すれば多くの美術館や観光施設に無料で入館可能なパリでは、他のどの街でも味わえない文化的幸福を享受できます。シェンゲン圏の中心都市であるため、旅行の際の便利が良いです。特にLCCや格安深夜バスが発達した欧州では、国内旅行感覚で国境を跨ぐことができ、僕は留学期間中に23カ国を巡りました。

一見不真面目なことを申し上げますが、留学が自分に対して重要な役割を演じたのは、「学」的な局面よりも寧ろ「留」の方でした。自分が慣れ親しんできた日本の、東大の環境や人間関係から一時的に切り離され、物理的にも心理的にも強制的に座標をずらされることで、過去の自分を時間的・空間的に相対化できたことは、自己認識や自らの将来に関する思考を深めるのに対して大いに役立ちました。また、ある時から旅行の楽しさに気が付き、そこから毎月のように複数の国を訪れたことは、端的に刺激的で貴重な経験であったと同時に、そこで得た見聞は、今後自分が様々な問題に直面するに当たって不可欠な糧となってくれるものだと思信しています。

・家賃/寮費（光熱費含む）	8～9万円/月	費用と奨学金
・食費	5万円/月	
・渡航費	20万円	
・娯楽費（旅行等含む）	55万円	
・その他（教科書代・保険代等）	10万円	
・プログラム付属の奨学金	10万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：佐川 弘晃さん

所属・学年（留学開始時）：法学部3年

留学先大学・学部：ライデン大学 Law School

留学期間：2022年2月～2023年1月（11ヶ月間）

国際法の授業が同じ友人とハーグ近郊のレストランに行ったところ、現地の国際刑事裁判所（ICC）で活躍の日本人の方と偶然お会いして親しくなり、その後に友人共々、裁判所を案内していただくという幸運な出来事がありました。

人生の中で宝物となる1年を得ることができました

①留学を決めたきっかけ
外交官になりたいと思っていたため、語学力・現地で生き抜く力を培いたいと思い、留学を決めました。中でも、学部で専攻していた国際法の英語の授業が多く開講されているオランダを選びました。

②留学先での勉強内容
第1に、国際法の授業を取りました。国際法の講義、欧州人権条約の講義、模擬裁判形式のゼミを履修しました。授業で国際司法裁判所の傍聴もしました。第2に、オランダの歴史やEU政治などの授業を取りました。実務を意識した議論形式の授業もある中、試験は論述形式なため、英語で書く力が鍛えられました。

③留学先を勧める点
オランダは面白い国です。日本や米国などと違う欧州らしさも持ちつつ、独自の文化が発展しています。大学院で米国に行くことを考えている方は、欧州の視点を学ぶ点でもお勧めできます。また、旅行もしやすい場所にあるため、私も27カ国近く旅行できました。そして、英語があらゆる場で使えるので英語力も鍛えられます。

特に前半の留学生活は小さな失敗の連続でした。寮不足による自分での家探し、急速な円安などで苦労しただけでなく、現地の模擬国連サークルの選考に落とされたり、友人の輪が広がらなかったり、体調を崩したりなど辛いことも多くありました。しかし、少しずつ目標を設定し、前向きに生きることで、多くの失敗を乗り越えました。幸い寮には入ることができ、節約術も身につけ、模擬国連サークルには後半セメスターから加入して国際大会に出場し、現地も含めて多様な地域の友人ができました。W杯と一緒に見たり、サークル活動で切磋琢磨した友人との日々は宝物のような思い出です。今後の外交官のキャリアにも活かしていきたいと思います。

・家賃/寮費（光熱費含む）	10万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	15万円	
・娯楽費（旅行等含む）	65万円	
・その他（教科書代・保険代等）	10万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：中田 絢菜さん

所属・学年（留学開始時）：薬学部3年

留学先大学・学部：ウブサラ大学

留学期間：2022年8月～2023年6月（10ヶ月間）

電車で丸一晩かけてラップランドという北緯70度の街にオーロラを見に行きました。－30度の中サウナに入ったりスキーをしたり、夜には素晴らしいオーロラを見ることができた貴重な旅でした。

自分の将来像を具体的に考えるきっかけに

①留学を決めたきっかけ
昔から留学して多様な価値観に触れ、視野を広げたいと思っていました。また将来海外で働いてみたい・海外の研究室の雰囲気を知りたいと思っていたので薬学部と縁があり留学生の割合も高いウブサラ大学に決めました。

②留学先での勉強内容
前半の6ヶ月は研究室で研究をしていました。研究室は日本にいる時に自分でアポを取って入れていただきました。後半の4ヶ月は修士向けの授業から、がん細胞生物学や創薬開発の実践的な授業、バイオインフォマティクスの授業を取りました。他にも英語やスウェーデン語の授業も取りました。

③留学先を勧める点
街全体が大学を中心としていて、治安も良く留学生も暮らしやすいです。Nationと呼ばれる学生団体が活発で、必ず気の合う友達に出会えます。寮はキッチンとリビングをシェアするタイプが多く、様々な国の人と一緒に暮らせます。ヨーロッパへの旅行もしやすいです。

長期留学は自分を見つめ直し新たな可能性を広げる絶好の機会だと思います。海外で暮らすと自分の価値観はいかに凝り固まったものだったかと嫌でも気づかれます。多種多様な人と出会えるのでなんとなく大学を卒業して就職して、というレールに縛られずもっと自由に生きていいのではないかと人生の選択肢が広がりました。またスウェーデンは環境保護やジェンダー、働き方に対する考え方も日本と違い、将来どんな国でどんな風に生きたいかを考えるきっかけになりました。留学は手続きや文化の違いなど大変なこともあります。が、きっと留学して良かったと思える瞬間があるはず。世界中に友達ができるのは本当に楽しいし、一生の財産になりますよ！

・家賃/寮費（光熱費含む）	6.5万円/月	費用と奨学金
・食費	2.5万円/月	
・渡航費	25万円	
・娯楽費（旅行等含む）	50万円	
・その他（教科書代・保険代等）	10万円	
・奨学財団からの奨学金	12万円/月	

2) 学期単位のプログラム

UC 派遣プログラム

米国カリフォルニア大学 (UC) バークレー校およびデービス校の2校との協力により、東京大学の学生を1学期～1年派遣する留学プログラムです。バークレー校のAmerican and International Study Program (AISP) ではアメリカ政治と国際関係を勉強します。デービス校のGlobal Study Program (GSP) ではデービス校で開講されているほぼすべての授業から履修することができ、また、語学コースも実施されています。交換留学以外の方法で長期の留学が可能なプログラムです。基本的に授業料等の費用はすべて自己負担となりますが、東京大学や民間財団の留学用の奨学金に応募することもできます。

対象学生	実施時期		募集時期
	UCバークレー校	UCデービス校	
学部／院	Fall Semester：8～12月 Spring Semester：1～5月	Fall Quarter：9～12月 Winter Quarter：1～3月 Spring Quarter：4～6月	3～4月上旬頃

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-UC.html>



AEARU Global Learning Initiatives Program (オンライン)

AEARU (東アジア研究型大学協会) 加盟大学の所属学生に対して、加盟大学間で授業がオンラインで提供されるプログラムです。学生は、1期あたり3コースまで参加することができます。

対象学生	実施時期	募集時期
学部／院	コースにより異なる	7月／1月

詳細はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-AEARU_GLIP.html

SJTU Global Virtual Classroom Spring/Fall 2024 (オンライン)

上海交通大学がパートナー校の所属学生に対して理・工・農・医および人文社会科学系分野で約20のコースをオンラインで提供するプログラムです。学生は、最大3コースに申請することができます。

対象学生	実施時期	募集時期
学部／院	コースにより異なる	12月～翌年1月／7～8月頃

詳細はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-SJTU_GVC.html

PKU Global Open Courses 2024 Spring/Fall (オンライン)

北京大学がパートナー校の所属学生に対して中国に関連するさまざまなテーマを学ぶことのできるコースをオンラインで提供するプログラムです。学生は、最大2コースに申請することができます。

対象学生	実施時期	募集時期
学部／院	コースにより異なる	1～2月／7～8月頃

詳細はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-PKU_GOC.html



3) 全学短期派遣プログラム（サマー・ウインタープログラム等）

概要

グローバル教育センターが実施する、全学短期派遣プログラム（すべての学部・研究科の学生が参加できる可能性がある短期留学プログラム）のメリットは、期間が短いので費用を抑えられる・プログラムによっては付属の奨学金に申請できる・様々な内容や行先のプログラムがある・より長期で専門的な留学の準備になる等があげられます。短期間の留学でも、「自分の語学力を把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」等、長期的な収穫を得ることができます。

全学短期派遣プログラムには、以下の3種類があります。短期派遣プログラムの多くは募集期間が短く締切が早いものも多いため、TOEFL・IELTS等を予め受験し、スコアを所持しておく、参加可能なプログラムの選択肢が広がります。

グローバル教育センター担当サマープログラム

夏季休業期間中に実施されるプログラムです。東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営する、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施するプログラムです。内容はプログラムにより講義（語学または特定テーマ）、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。募集時期は4～5月で、5月下旬頃学内応募締切、6～7月頃までに学内選考と留学開始までの手続きを行います。

グローバル教育センター担当ウインタープログラム

春季休業期間中に実施されるプログラムです。サマープログラムと同様に、東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施されます。内容はプログラムにより講義（語学または特定テーマ）、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。募集時期は9～10月で、11月初旬頃学内応募締切、11～12月頃までに学内選考と留学開始までの手続きを行います。

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム

上記以外にも、東京大学が加盟する大学連合や、国内外の大学・機関が実施し、東京大学の学生のために参加枠が設定されたプログラムがあります（p16参照）。



グローバル教育センター担当サマー・ウインタープログラム一覧

この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。
各プログラムについて、下記の一覧やGo Global ウェブサイトにある過去のプログラム情報および最新情報を参考に参加を検討してください。

最新情報はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>



派遣先大学名		開催地	期間	プログラム費用 (航空賃、食費等は 別途自己負担)	募集人数	備考
サマープログラム	シェフィールド大学	英国	4週間	1,620ポンド程度 (宿泊費別)	40名程度	語学研修＋講義等＋ ホームステイ等
	ウォーリック大学	英国	4週間	2,645ポンド程度	40名程度	語学研修＋ホームステイ等
	チュラロンコン大学	タイ	2週間	13万円程度	30名程度	文化体験等＋講義等
	キングモンクット工科大学 トンプリー校	タイ	2週間	22万円程度	人数制限なし	文化体験等＋企業視察＋講義等
ウインタープログラム	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	米国	2週間	3,950米ドル程度	40名程度	講義＋フィールドワーク等
	アデレード大学	オーストラリア	3週間	4,370豪ドル程度	40名程度	語学研修＋講義聴講＋ ホームステイ等
	オタゴ大学	ニュージーランド	4週間	4,264NZドル程度	15名程度	語学研修＋講義聴講＋ ホームステイ等
	バリ政治学院	フランス	4週間	1,800ユーロ程度 (宿泊費別)	30名程度	講義等＋文化体験等
	浙江大学	中国	2週間	10万円程度	30名程度	中国語講座＋文化体験＋ 学生交流等

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム例

グローバル教育センター担当サマー・ウインタープログラム以外にも、東京大学の協定校が実施するプログラムや東京大学が加盟する大学連合・国内外の機関が実施し、東京大学の学生向けに参加枠が設定されたプログラム、費用の一部を主催者が負担する海外研修や学生会議等も毎年多数実施されています。この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに、代表的なプログラムを掲載しました。毎年内容が異なるプログラムもありますので、最新情報はGo Global ウェブサイトでご確認ください。

最新情報はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>

プログラム名		開催地	時期	プログラム費用 (授業料・宿泊費)	募集時期
東京大学の協定校等が実施するプログラム	Berkeley Summer Sessions	米国	5～8月の3～10週間	コースにより異なる	2～6月
		カリフォルニア大学バークレー校 (UCバークレー) が実施するサマーセッション。毎年夏に、5つの異なる期間のセッションで、600を超える多様な分野の授業が開講されます。受講学生の多くはUCバークレーの学生ですが、全米および世界各地からも3,000名を超える学生を受け入れています。			
	UCL Summer English Course	英国	8月の3週間	1,825ポンド	3月～定員になり次第終了
		主に学部生を対象とした、英国ロンドンでの生活を楽しみながら、英語スキルの向上を目指すプログラムです。話す、聞く、読む、書くスキルを、アクティビティを通じて学び、特にコミュニケーション能力の向上に重点を置いています。			
	UCL Summer School	英国	Session1:6～7月の3週間 Session2:7～8月の3週間	2,585ポンド～	Session1, 1&2:12月～翌年5月 Session2:12月～翌年6月
		ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) が実施する世界50ヶ国からの学生が参加するサマースクール。アカデミックな講義を受講でき、14の分野から60以上のモジュールがあります。			
Deutschkurse- Learn German in Munich	ドイツ	8月の3週間程度	1,017ユーロ程度	2～3月	
	ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクスミリアン大学 (LMU) が提供する3週間のドイツ語集中コース。文化体験も含まれ、修了した学生にはLMUの単位 (ECTS) が付与されます。				
東京大学が加盟する大学連合等が実施するプログラム	IARU Courses	加盟大学	コースにより異なる	コースにより異なる	12月～翌年2月
	IARU (International Alliance of Research Universities、国際研究型大学連合) は、将来の世界的リーダーを養成するトップクラスの11研究大学による、教育研究における連携推進を目的として2006年に設立された大学連合です。そのIARUに加盟する世界トップレベルの大学が提供する短期留学プログラムです。 【加盟大学】 オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、ケープタウン大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イェール大学、東京大学				
AUA実施プログラム	加盟大学	プログラムにより異なる	留学先大学が一部負担するプログラムも多い	随時	
	AUA (Asian Universities Alliance、アジア大学連盟) は、アジアの国・地域を代表する15大学で構成され、加盟大学間の連携強化を通じて、地域・世界の重要な諸課題に取り組むことを目的として2017年に設立された大学連合です。プログラムは毎年異なります。過去に開催されたプログラムの例、最新情報・詳細はGo Global ウェブサイトをご参照ください。 【加盟大学】 清華大学、北京大学、香港科学技術大学、ソウル大学校、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、インドネシア大学、マラヤ大学、コロンボ大学、キングサウド大学、ナザルバエフ大学、ヤンゴン大学、アラブ首長国連邦大学、IITボンベイ、東京大学				



氏名：上野 泰雅さん

所属・学年 (プログラム参加時)：教養学部文科二類2年

主催大学 (協定校) 名：マラヤ大学、インドネシア大学

プログラム名：AUA UI-UM Deep Dive Program

留学期間：2023年8月 (2週間)

インドネシアではJKT48 (AKB48の姉妹グループ) が大人気です。そのため、日本語版の歌詞で歌うことを何度も求められ、移動中のバスで何曲か歌いました。前田敦子になった気分でした。

知識の幅も人間としての幅も広がった2週間

①プログラムを選んだきっかけ

海外で学んだ経験がなかったので、英語力の向上だけでなく外国での生活を体験しておきたいと考え応募しました。インドネシアを選んだ理由は、発展途上にあるため将来的にかかわる機会が増えると考えたためです。

②プログラムの内容

1週目はオンラインで、2週目はインドネシア大学にて、アジア各国の大学から集まった学生・教員で、アジアの宗教・文化の多様性とその保全について講義を受けたり、各国の事情について話しあったりしました。

③プログラムを勧める点

費用面でも期間の面でも、海外で学び生活する第1歩として最適なプログラムだと思います。また、語学学習にとどまらず、参加者との交流を通して各国の状況について生の声を聴けたのも貴重な経験でした。

今回のプログラムで得た最も貴重な学びは、日本の文化や生活を相対視する経験ができたことでした。例えば、アジアの多くの国々では宗教は主要な関心事の一つであると聞いて、なぜ日本では宗教教育があまり行われないのか等、今まで自明視してきたことを問い直す視点を得ることは、海外のみならず我が国についてもより深く知る契機になり非常に有益だと感じました。また、インドネシアでの生活を通して、どんな時でも明るく前向きに過ごすことの重要性を再確認しました。宿舎にドライヤーがなかったり、食卓に野良猫が上ってきたりする日本ではありえないような環境の中でも、それが現地の文化であると前向きにとらえ、現地の人とできるだけ同じように明るく生活することで異なる環境にもすぐに慣れ、多くの友人を作ることができました。

・渡航費	13万円	費用と奨学金
・プログラム費 (宿泊費を含む)	0万円	
・その他 (娯楽費・保険代等)	1万円	
・奨学金	5.6万円	



氏名：中村 明日香さん

所属・学年 (プログラム参加時)：経済学部3年

主催大学 (協定校) 名：シンガポール国立大学

プログラム名：NUS Asia Fellowship Programme

留学期間：2023年6月～7月 (1ヶ月間)

シンガポールは治安がよく、夜も気軽に外出できます。各国の友人と授業後にホーカーズで現地の食べ物を食べたりマリーナエリアに出かけたりと、短期間ながらもシンガポールを満喫できました。

アジアの仲間と出会う夏

①プログラムを選んだきっかけ

本プログラムのテーマ「サステナビリティと気候変動」に非常に興味がありました。また、海外大学のサマープログラムの中で定期的に参加しやすく、アジア各国の学生と出会える良い機会になると思い参加を決めました。

②プログラムの内容

アジア各地の大学から2名ずつ参加し、初めの1週間はシンガポール国立大学でサステナビリティや課題解決の授業を受け、グループ発表をしました。帰国後は週1回のオンラインセッションが1ヶ月間行われました。

③プログラムを勧める点

短期プログラムだからこそ渡航中は集中力と体力を使い切り、様々なことを全力で吸収できます。プログラムを通してアジア各地に友人ができます。治安がよく温暖なシンガポールは魅力的な渡航先だと思っています。

環境問題への関心、シンガポールという経済の中心地への漠然とした憧れ、アジア圏への興味、そして海外の大学で授業を受けてみたいという思いがあり、びったりなプログラムだと考え参加しました。環境政策について日本の教授とは異なる意見を持つ現地の教授と話したり、街の様子を見たりしたことで、自分のシンガポールに対する見方が大きく変わりました。また、アジア各地 (インド、タイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、中国本土、香港、シンガポール) の大学から参加した仲間との出会いは、今まであまり馴染みのなかった地域の文化に興味を持つきっかけとなりました。彼らと朝から晩まで一緒に過ごし、互いの言語、宗教、日常生活等について話しながら食事をしたり夜景を見に出かけたりした日々は、非常に濃密で幸せな時間でした。

・渡航費	16万円	費用と奨学金
・プログラム費 (宿泊費を含む)	0万円	
・その他 (娯楽費・保険代等)	4万円	
・プログラム付属の奨学金	14万円/月	



氏名：中村 優花さん

所属・学年(プログラム参加時)：薬学部6年

主催大学(協定校)名：プリティッシュコロンビア大学(UBC)

プログラム名：Vancouver Summer Program

留学期間：2023年6月～7月(1ヶ月間)

バンクーバーは世界中から人が集まっている地域でアジアの人も多いので、カナダにいることを一瞬忘れてしまうほど過ごしやすい場所でした。街の人々も明るく親切で6月の気候も最高でした！

短期プログラム 体験記

世界への扉を開いてくれたカナダでの1ヶ月

①プログラムを選んだきっかけ

元々海外留学に興味があり、英語圏での短期留学先を探していました。卒論等で忙しくなる前の6～7月に留学でき、自分の興味がある医療を学べるコースがあったため、このプログラムを選びました。

②プログラムの内容

前半の2週間で臨床研究の講義やワークショップに参加し、グループで新しい臨床研究を提案するプレゼンを行いました。後半では小児病院で医師の方々による疾患についての講義を受け、最後に医療実技も学びました。

③プログラムを勧める点

講義やワークショップがとても充実しています。授業以外にイベントも多くあるので、他のコースに参加している海外の学生とも異文化交流をすることができます。日本人がほばいないので、英語を鍛えることができます。

今まで海外旅行も含めて海外に行ったことが一度もなく、英語にも全く自信がなかったので、渡航前は1人で海外に行くことがとても不安でした。しかし、いざ日本から飛び出せば意外となんとかなるということを知ったのはこのプログラムを通して知ることができました。世界各国から集まった親切的なフラットメイトやクラスメイトたちに恵まれ、1ヶ月楽しく過ごすことができました。カナダでのこの経験は今の私を間違いなく支えてくれています。そして、この1ヶ月で国際経験を積む大切さを知り、海外に対するハードルもかなり低くなったことで、プログラム後に学科の国際研修にも挑戦できました。また、私が滞在したバンクーバーはカナダの先住民の文化を今でも大切にしている地域で、大学内外でその文化に触れることができたこともとてもいい経験でした。

・渡航費	26万円	費用と奨学金
・プログラム費	30万円	
・宿泊費	17万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	10万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：眞田 聖光さん

所属・学年(プログラム参加時)：新領域創成科学研究科修士2年

主催大学(協定校)名：カリフォルニア大学バークレー校

プログラム名：Berkeley Summer Sessions

留学期間：2023年6～8月(2ヶ月間)

キャンパスの建物の目の前にあるスペースにはなんと“ノーベル賞受賞者専用駐車場”の看板が…。毎日2、3台とまっていて、偉人の存在を身近に感じることができました！

短期プログラム 体験記

世界トップレベルの授業や学生との交流から見たこと

①プログラムを選んだきっかけ

学部生の頃から留学願望があり、コロナによる渡航制限や隔離がなくなったことで留学ができる状況になったことが大きなきっかけです。宇宙開発に携わる仕事に興味があり、天文学分野で有名なバークレーを選びました。

②プログラムの内容

参加期間ごとに決められた単位以上の授業を受講します。授業は教授・院生・学部生のいずれかが行い、多くの授業で中間・期末テストまたはプレゼン発表がありました。滞在する寮はランダムで選ばれ、2人部屋でした。

③プログラムを勧める点

最長で3ヶ月間バークレー生と一緒に授業を受け、定期試験やGPA等もあるため海外の大学生活をリアルに送ることができます。長期留学を考えている場合は、現地でやっていけるかどうか試すこともできると思います。

米国の大学生の楽しさと苦しさを体感できた2ヶ月でした。私はコンピュータサイエンス(CS)と天文学の授業を取り、毎日11時～21時まで授業がありました。バークレーはCS分野で世界トップで、講義のレベルがとても高く、生徒の情熱が大きいことも驚きでした。他の生徒と解法やアイデアについて話し合う際、会話の速さについていくのに必死でしたが、積極的な会話で問題を解く・分からないことは遠慮なく聞くといった態度から、勉強に必要な姿勢を学ぶことができました。多くの時間を勉強に費やしましたが、授業内でたくさんの友達ができ、プログラム終了後も1ヶ月間家に泊めてもらったりしました。また、中間や期末の後はパーティーやバーに行き、思い切り踊ったり歌ったりと米国ならではの陽気な文化に触れることができました。

・渡航費	12万円	費用と奨学金
・プログラム費	90万円	
・宿泊費	60万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	12万円	
・奨学金	0万円	



氏名：西垣 昂揮さん

所属・学年(プログラム参加時)：工学部3年

主催大学(協定校)名：チュラロンコン大学

プログラム名：チュラロンコン大学サマープログラム

留学期間：2023年8月(2週間)

到着して最初に学ぶタイ語は「辛い」でした。タイ料理は辛いものが多いからです。食堂での注文の仕方とともに教わり、話して通じたときは感動を覚えましたし、学食は安くて美味しかったです。

短期プログラム 体験記

タイを知る。日本を相対化し、日本を知る。そして自分を知る。

①プログラムを選んだきっかけ

留学に興味がありましたが長期留学に参加する前に気軽に短期かつ安価に参加できるものを探していたところ、内容が充実しており、現地の生活を深く学ぶことができそうなこのプログラムを見つけました。

②プログラムの内容

プログラムは大学での授業と2回のフィールドワークからなります。タイ文化・タイ語を英語で勉強するだけでなく、タイ料理を作ったり伝統舞踊を踊ったりしました。最終日にはタイと日本についての発表を行います。

③プログラムを勧める点

一つの国について深く学ぶことは日本を新たな視点から見ることにつながることを再認識し、優秀な現地の学生や他の参加者からは大いに刺激を受けました。自分の知らない世界の広さを痛感し、視野が広がりました。

先生たちはみんなとても親切で、サポートがしっかりしているだけでなく、タイの食べ物等を何回もいただきました。最終日の英語での発表の際は一人一人がしっかりとフィードバックを受け、非常に学びになりました。放課後や休日には現地学生や東京大学の学生と一緒に出かけし充実した毎日を過ごすことができました。交流した現地学生の数人は日本に留学中で、帰国後も関係が続いています。さらに、長期滞在中、現地人の目を通して異国を観察する中で個人の旅行では見過ごしていたであろう都市の構造や暮らし・文化の問題点や日本との差異に気づくことができました。この発見は自分の専門としている建築を今後勉強していくのに大きな意味を持つと考えています。現地でのたくさんの出会いには感謝の気持ちでいっぱいです。

・渡航費	10万円	費用と奨学金
・プログラム費(宿泊費を含む)	13万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	4万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：出田 智聖さん

所属・学年(プログラム参加時)：教養学部理科三類2年

主催大学(協定校)名：シェフィールド大学

プログラム名：シェフィールド大学サマープログラム

留学期間：2023年8～9月(1ヶ月間)

英国料理は噂と真逆でどれも美味しかったです。週末はプレミアリーグやエディンバラ城のミラタリートゥーが面白く、オックスフォードとUCLに行って勉強のモチベーションも高まりました。

短期プログラム 体験記

想定外の連続で有意義となった僕の初めて海外留学

①プログラムを選んだきっかけ

苦手な英語を集中して鍛えたかったし夏休みだけなので卒業を遅らせなくて良いことから参加を決めました。また特に米国や英国に留学しなかったのと様々な分野の先生による講義がある等と内容が魅力的でした。

②プログラムの内容

午前はクラス分けテストで分けた十数人のクラスでTEDを扱ったテキストに沿ってリスニングや議論をします。午後は各分野の専門家による講義です。僕は超新星爆発やバイオメテイクスの授業が特に面白かったです。

③プログラムを勧める点

シェフィールドは基本的に治安がよく、夜に1人で外出しにくい限り大丈夫なので初めての留学によいと思います。現地で出来た友達とは帰国後も勉強仲間として交流が続いていて思いがけない良い副産物となっています。

僕は行きの飛行機では手荷物鞆にコンタクトを入れ忘れた上に航空会社が誤って目的地以外にスーツケースを運んでしまい、目が不衛生な状態が続き初日に現地で眼科に行きました。また留学の終わりにコロナで病院に行きましたがそこで必死に状況や体調を伝え、上で医師の指示を仰いだり、バスで仲良くなった家族と積極的に喋ったりすることは貴重な体験になりました。相手が言った単語や文の構文の把握が非常に難しく、オンライン英会話等を使った実用的な勉強も必要だと痛感しました。でも眼科医を初め、僕の為にゆっくり丁寧に話して下さる方が沢山いて有難かったです。授業では日頃の英語学習では見ないイディオムも出て来て勉強になりました。現地での積極性やしっかり復習して自分のものにするかの方が留学前の英語力よりずっと大事と思いました。

・渡航費	90万円	費用と奨学金
・プログラム費	30万円	
・宿泊費	17万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	35万円	
・奨学財団からの奨学金	8万円/月	

4) 国際総合力認定制度「Go Global Gateway」

国際総合力認定制度「Go Global Gateway」(GGG)は、東京大学のすべての学部学生が「国際総合力」(世界の多様な人々と共に生き、共に働く力)を伸ばすことを支援するものです。

国際総合力は右の図の5つの要素から構成されます。本制度では、様々なアクティビティに取り組むことを推奨しています。アクティビティに取り組み、レポートを提出すると、認定証が授与されます。

認定証は、大学院進学や就職活動の際に活用することができます。また、認定を受けると、認定者限定のプログラムに参加することができます。



アクティビティのカテゴリー

1. 外国語学修	2. 授業・コース
- 外国語に関する前期課程修了要件の必要単位(基礎科目の外国語および総合科目L系列)の取得(必須) - 第三外国語科目の単位取得	- 東京大学で行われる講義の単位取得 - MOOCsの修了 - サマープログラム、ウインタープログラム等の修了
3. 海外経験	4. 国際交流活動
- 留学プログラムの修了 - 海外で実施されるボランティア、フィールドワーク、インターンシップ等	- 母語以外で開催される講演会やイベントへの参加 - 国際交流イベントの運営や企画 - その他ボランティア、インターンシップ等国内で行われ国際交流活動と認められるもの

認定までの流れ

I	Go Global Statementを提出しよう 在学中にどのようなことに挑戦し国際総合力を身に着けたいか、目標を設定しよう。
II	アクティビティに取り組み、レポートを提出しよう 認定対象となる4つのカテゴリーのうち、3つ以上のアクティビティに取り組み、レポートを提出しよう。
III	認定申請レポートを提出しよう 4つのうち3つ以上のカテゴリーのアクティビティレポートが承認されたら、認定申請レポートを提出しよう。
IV	認定者限定のプログラムに参加しよう 認定証とポートフォリオ ^(※1) を大学院入試や就職活動の際に活用しよう

(※1) ポートフォリオとは、承認されたレポートをまとめた活動記録のこと。専用システム上で自動的に生成される。

GGG主催プログラム・イベント

アジア女性大学(AUW)プログラム

AUWはバングラデシュにあるリベラルアーツ型の大学で、南アジアの女性に高等教育で学ぶ機会を提供しています。2021年度から合同短期プログラムを実施し、ジェンダーや移民・難民・避難民問題について両大学の学生が共に学んできました。



AUW生との山梨へのエクスカーション



プリンストン生との食事



プリンストン大学プログラム(GGG認定者限定)

米国のアイビーリーグ校の一つであり、2022年度から合同短期プログラムを実施しています。これまでに「持続可能性」等をテーマに掲げ、参加学生は東京大学ニューヨークオフィスとプリンストン大学で講義を受講するとともに、国連本部やラトガース大学を訪問しました。



国際交流イベント

日本国内で留学生と交流する機会も提供しています。これまでに、七夕やハロウィーンイベント、都内の庭園訪問、映画上映会、国際的に活躍する方をお招きする講演会等を実施しました。



都内庭園訪問



七夕交流会



詳細はこちら

ソーシャルメディアでも情報発信しています。是非フォローしてください。

- ・X(旧Twitter) @goglobalgateway
- ・Instagram @utokyo_goglobalgateway
- ・Facebook Go Global Gateway/東京大学国際総合力認定制度
- ・<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-gateway/ja/index.html>



氏名：市川 紗希さん
所属・学年（認定証取得時）：理学部4年
認定証取得年：2023年

国際活動の中で見つけた新たな選択肢

①認定を受けようと思った動機

「国際的に活躍する研究者になりたい」という目標の実現のためには、学部生の間に積極的に国際活動に参加し、国際総合力を高める必要があると感じたからです。活動を振り返り、レポートにまとめるというプロセスも、自分が得た学びを言語化する良い機会になると思いました。

②認定を受けるまでに取り組んだアクティビティの中で特に印象に残っているものや学びが得られたもの

大学3年次に、体験活動プログラムの1つである「ハーバード大学医学部研究室訪問プログラム」に参加しました。このプログラムでは、ボストンを訪れ、アメリカの研究環境や進路選択について、ハーバード大学の先生方とディスカッションを行いました。初めての渡航経験でしたが、アメリカの研究室の様子や大学院の仕組みを詳しく知ることができ、日本の研究環境との違いに衝撃を受けたことを覚えています。このプログラムへの参加がきっかけとなり、学部卒業後の海外大学院進学を目指し始めました。自分の人生設計を大きく変えるような、新たな選択肢を見つけることができ、とても貴重な経験となりました。

③認定証やポートフォリオをどのように活用したか

認定証を取得する過程で参加した活動は、コロナの影響もあり、オンライン開催のものが多かったため、今後は海外で行われるプログラムに積極的に参加し、活動の幅を広げていきたいと思っています。また、過去の活動を振り返るツールとしてポートフォリオを活用するとともに、今後の国際活動の記録にも利用していきたいと考えています。



氏名：内田 啓太さん
所属・学年（認定証取得時）：教養学部文科二類2年
認定証取得年：2023年

“グローバル”が身近に感じられるように

①認定を受けようと思った動機

国内を超え海外でも活躍できる資質が重視されるであろう今後を見据え、学生のうちにグローバル経験を積んでおきたいと考えたからです。中高時代のような「受身」ではなく、国際交流の経験を積むことで「自発」的な姿勢を養いたいと思っていました。必ずしも海外に行く必要はなく、国内での国際交流活動だけでも認定を受けられるのが、Go Global Gatewayの魅力です。

②認定を受けるまでに取り組んだアクティビティの中で特に印象に残っているものや学びが得られたもの

大学1年次の夏休みにサマープログラムに参加し、イギリス・シェフィールド大学への短期留学を経験しました。初めての海外渡航で不安はありましたが、現地でホストファミリーが温かく迎えてくださり、一緒に日帰り旅行や朝の散歩に行ったのがとても良い思い出になりました。現地の大学での活動についても、英語での講義に加え他国からの学生との交流など、学びになる魅力的なものが多かったです。また、2年次の夏～秋にかけては、2023年度のUGIPのメンバーとして、フランス・ドイツ・ベルギーを訪問するインターンシップに参加しました。経営現場の見学や現地社員の方との懇談を通じ、異文化のもとでの企業風土が肌で感じられ、「グローバル」という言葉の解像度が上がりました。

③今後取り組みたいこと、認定証やポートフォリオをどのように活用していきたいか

認定証を取得する過程で活動記録として書いたポートフォリオは、自分の達成したことや逆にもう一步だったことを把握し、自らを客観視する上での貴重なツールになりました。そのため、今までのポートフォリオを見て振り返りつつ、次の行動の一手を決める材料にしたいと考えています。今後も国際的な経験を積みながら、新たなポートフォリオを積み重ね、大学時代に取り組んだことの軌跡として活用したいです。みなさんも是非、国際総合力認定制度を通じて、異文化をもつ場や人と積極的に交流してみてください。勇気ある、最初の一步が大事です！



氏名：松本 理枝さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部文科三類1年
参加プログラム：東京大学－アジア女性大学合同サマープログラム「21世紀の人の移動～移民、難民、避難民の視点から」“Migration, Immigration, and Refugees”

ニュースの中の出来事が、「友人ごと」になる

①プログラムへの参加を決めた理由

私自身、日常生活で関わる留学生は欧米や東アジアなど日本と似たような国からの方々に限られていた中で、アジア女性大学の学生との交流はとても魅力的でした。同年代ですが、全く異なる環境で生きてきた彼女たちが、日々どんなことを考え、どんな暮らしをし、何を学んでいるのか、現代社会の問題に対してどのような意見を持っているのか、彼女たちとの交流を通じて学び、自分の世界を広げたいと思い、プログラムに参加しました。

②プログラムの内容

アジア女性大学の学生と一緒に10日間、本郷キャンパスで講義を受けたり、学外でアクティビティを行ったりしました。講義では、移民や難民にまつわる問題を、日本や世界、法制度や文化など様々な視点から学びました。講義中に教授と活発に意見交換するアジア女性大学の学生の姿に驚き、大きな刺激を受けました。講義後のアクティビティでは、美術館や観光地、国際協力を行っている団体などを訪問したり、映画を鑑賞したりといった活動を通じて、日本と彼女たちとの繋がり、異文化を受容するということをより具体的に学ぶことができました。最終日にはシンポジウムが開かれ、プログラムで学んだことの成果を関わってくださった方々の前で発表し、パネルディスカッションを行いました。

③プログラムを勧める点

移民や難民、ジェンダーの問題を、その当事者と共に学べるのはとても貴重な機会です。アジア女性大学のあるバン格拉デシュはミャンマーと国境を接しており、アジア女性大学にもロヒンギャ族の学生がいます。講義でロヒンギャ難民について学んだ際、アジア女性大学の学生が語ったのはどこか遠くの地域の話ではなく、まさに彼女たちの友人の話であり、そこからは日本では感じることのできないリアリティや当事者としての問題意識が伝わってきました。すでに移民・難民問題に関心がある人にはもちろんですが、特に関心を持っていない人こそ、こういった経験を通じて、移民や難民、ジェンダーの問題を自分ごと、自分の友人ごととして捉えるきっかけにいただきたいと思います。



氏名：杉本 証さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部理科一類2年
参加プログラム：東京大学－プリンストン大学合同プログラム「環境と持続可能性」

刺激にあふれたプログラム

①プログラムへの参加を決めた理由

地球温暖化や環境問題、エネルギー問題に関心があり、人類にとって喫緊であるそれらの課題についての視野を広げ、視座を高めたいと思い応募しました。また、ノーベル賞受賞者の真鍋叔郎教授と直接お会いし議論出来るという事や様々な分野の教授の講義を聴けるのも非常に魅力的でした。

②プログラムの内容

午前中はセントラルパーク前にある東京大学ニューヨークオフィスやプリンストン大学で講義を受講しました。講義は教授や国際機関職員、原子力発電の専門家の方々による多岐にわたる内容で環境問題やサステナビリティをグローバルな視点から学べました。また、真鍋教授の講義後に昼食会を開いて頂き、プライベートな話や質問等を直接させて頂けた事はかけがえのない経験となりました。午後には国際連合本部ツアー等のようなフィールド学習をマンハッタンやプリンストン大学で行いました。自由時間には博物館、美術館、レストラン等に行ったり、プリンストン大学の学生がパーティーを開いてくれたり、観光客が知らないような場所にも連れて行ってくれたりしました。

③プログラムを勧める点

法律、電力、人口増加等の様々な議題を世界全体から俯瞰して環境問題について熟考する機会を経て、自分が何をすべきかの道筋を立てる事が出来ました。また、現地学生との交流を通して学生生活や文化やスラング等を知る事が出来ました。多様性を受け入れる難しさや課題を認識する経験もしました。現地の学生は全員日本語を学習しているため、コミュニケーションに困る事なく楽しい時間を過ごせました。また、プログラム終了後もプリンストン大学の学生達が何度か来日し、今でも交流が続いています。渡航費全額や宿泊代の大部分を補助して頂いた上に、出国から帰国まで細部にわたりサポートして頂き安心して参加する事が出来ました。

2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム)

1) GLP-GEfIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム

*本プログラムは今後リニューアル予定であり、下記情報は2023年12月時点のものです

GLP-GEfIL (Global Education for Innovation and Leadership) は、国際社会における指導的人材の育成を目的とした学部学生対象の特別教育プログラムです。GLP-GEfIL では、プログラムの一環として、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラム等に、修学中に2回参加する機会を設けています。また、海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金(地域、期間等に応じて最高100万円まで)を支給します。GLP-GEfIL は、語学力や意欲等により選抜された学生が履修できます。学部2年生(PEAK学生は1年生)を対象に、年度に1回、選抜を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

※選抜方式・応募資格は今後変更される場合があります。



第9期履修生 認定式の様子(2023年12月)

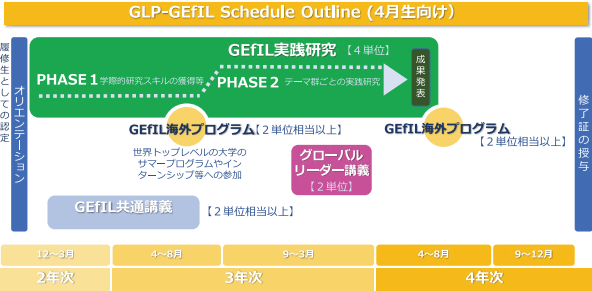
GLP-GEfIL 海外プログラム留学先(例)

プログラム名	開催地	期間
Nanyang Technological University, Singapore	シンガポール	6~7月 2~4週間
Stanford Summer International Honors Program (SSIHP)	米国	6~8月 8週間
Harvard Summer School	米国	6~8月 3~7週間
Yale Summer School (YSS)	米国	5~8月 5週間
University of British Columbia, Vancouver Summer School	カナダ	6~8月 4週間
Pembroke Cambridge Summer Programme	英国	7~8月 6週間
LSE Summer School	英国	6~8月 3~9週間
Oxford: International Politics Summer School	英国	7~8月 2週間
University College London	英国	6~8月 3~6週間
Geneva Summer Schools	スイス	6~7月 2~4週間
Ludwig Maximilian University of Munich	ドイツ	7~8月 3~4週間
RWTH Aachen University, Engineering Summer School	ドイツ	6~8月 2~3週間
Aalto University Summer School, Finland	フィンランド	7~8月 2週間
HEC Paris Summer School	フランス	6~7月 2~4週間
Leiden University Summer Schools	オランダ	6~7月 2~4週間

※上記はGEfIL履修生(現履修者)を対象として提供する海外プログラムの一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。http://www.glp.u-tokyo.ac.jp/gefil/abroad/

GLP-GEfIL の概要

- 1 **GEfIL 実践研究**: 学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。PHASE1、2の2期に亘ります。
- 2 **GEfIL 海外プログラム**: 3年次および4年次に、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。
- 3 **グローバルリーダー講義**: 世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う合宿形式の講義とワークショップです。
- 4 **GEfIL 共通講義**: GLP-GEfIL の主幹メンターによるインタラクティブなオムニバス講義です。グローバルな課題に取り組むためのアカデミック・スキルの獲得を目指します。



協賛企業

東京大学グローバルリーダー育成プログラムの海外派遣の奨学金は、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様の支援によって実現しています。
株式会社IHI、旭化成株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、江崎グリコ株式会社、ABB株式会社、大塚製薬株式会社、JFEホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン、住友商事株式会社*、住友生命保険相互会社、住友不動産株式会社、ソニーグループ株式会社、ソラミツ株式会社、武田薬品工業株式会社、公益財団法人Tazaki財団**、東海旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東レ株式会社、日本たばこ産業株式会社、日本調剤株式会社、株式会社日本M&Aセンター、野村證券株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士電機株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社LIXIL(2023年12月現在)
*住友商事株式会社は、東京大学GLPリーディング・パートナーです。
**公益財団法人Tazaki財団は東京大学GLPに委託型奨学金支給を行っています。

本プログラムに関するお問い合わせはGLP推進室までお願いします。 E-mail: glp-gefil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

GLP-GEfIL
ウェブサイトに
アクセス



2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」

主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」は、学生が異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、(1)海外教育機関との共同プログラム、(2)現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、(3)海外の学生との合同国内研修等様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が単位(通常2単位)として認定されます。本授業の多くは、S2ターム(夏休み)・A2ターム(春休み)期間中に実施されますが、その他S1-2/A1-2セメスター期間に日本にて実施される国際研修や、渡航前に、通常のセメスター/ターム中に事前研修を実施する場合もあります。2022年より、これまで通り海外渡航型国際研修が再開されています。

主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。むしろ、学生にとってのはじめての海外経験を、後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。但し、授業によっては、参加者の選抜を行ったり、ある水準以上の語学力、専門性を求めたりする場合があります。学生が負担する費用や奨学金の有無等は、授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、全体および個別ガイダンスで説明を受けてください。全体ガイダンスはA/Sセメスター開始直後に実施されますので、Global Komabaのウェブサイトに掲載されるスケジュールをご確認の上、是非ご参加ください。

グローバル駒場の国際研修ウェブサイトにアクセス



https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/study_abroad_programs/globalpraxis/

主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」過去の実施例

講義題目	研修地
UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa(UTSIP Kashiwa)	日本
国際研修(中国語サマースクール)・上級中国語北京研修	日本・中国
ソウル大学校韓国語研修サマープログラム・韓国朝鮮事情の理解と交流	韓国
中国語トライニガルプログラム生向け台湾フィールドワーク	台湾
TLPドイツ語夏季／春季研修	ドイツ
イタリアで考古学を体験する	イタリア
トリノ大学イタリア語研修	イタリア
TLPフランス語夏季／春季研修	フランス
平和のために東大生ができること	カザフスタン・トルクメニスタン
変容するメキシコと日本(スペイン語TLP研修)	メキシコ
開発と貧困:フィリピン国際研修	フィリピン
実践的国際人権法・人道法入門	スイス・マレーシア(2022年度終了)
多文化共生社会の課題を英語で学ぶオーストラリア研修	日本(2022年度終了)
日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習	日本(2021年度終了)
グローバルヘルス入門・グローバルヘルス入門演習	日本・米国(2023年度に終了)

※上記の授業の開講は年度によって変更される場合があります。

イタリアで考古学を体験する

2017年度に大学院の多文化共生(IHS)コースの国際研修として、イタリアのナポリに近いソンマ・ヴェスヴィアーナ東京大学遺跡発掘調査の現場を訪れる当プログラムは始まりました。コロナ禍の2020年、2021年の中断を挟み、現在、前期課程の学生を中心に10人ほどを定員に行われています。考古学は人文的知が、自然科学や技術を統合・応用して調査研究を進める学問分野です。国際研修「イタリアで考古学を体験する」では、さまざまな分野・科類の参加者が、東京大学が2002年以来考古学調査を継続している古代遺跡で実際に発掘作業に参加します。事前学習で初歩の知識と注意事項を学んでから、研修地で専門家・教員のスタッフとともに、イタリアでも稀有な調査進行中の大型遺跡に入り、イタリア人学生や国際的な研究者と交流しつつ、発掘研究の現場と最先端の知見に触れます。さらに、ナポリやボンベイを訪れ、文化遺産の継承と関連する現代社会や自然災害の問題について考え、プログラム終盤に英語のワークショップで各自発表します。それぞれの持ち帰られた経験が、将来さまざまな分野で学際性の涵養として、活かされ発展することが期待されています。



3) 体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生および大学院学生のみなさんが今までの生活と異なる文化・価値観に触れ、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることができるプログラムです。

フィールドは海外で働くOB・OG訪問等の国際交流体験、院内学級における学習支援等のボランティア、北海道の農場・牧場作業等の農林水産業や地域体験、学内研究室での研究体験等、多岐にわたっています。海外で実施する体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休業期間を中心に、1週間～1ヶ月程度活動を行い、みなさんの活動を支援するために交通費および宿泊費の一部をサポートする奨励金を支給します。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。

今年度実施するプログラム、過去に行われたプログラムの報告書については体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>



国際交流 2023年度体験活動プログラム一覧

主な活動場所	時期	期間	プログラム名称
中国(北京市・上海市)	3月	10日	中国訪問+キャンパスツアーと学生交流
韓国(ソウル)	8月	9日	大学・企業・文化体験 in韓国2023年 ―韓国を知る、韓国から日本を見る―
シンガポール	9月	9日	シンガポールでビジネスを学んでみよう
英国(オクスフォード・その他)	8～9月	1ヶ月	TOPS2023(Tokyo Oxford Programme of Summer 2023)
英国(ロンドンおよび近郊)	2月	6日	英国ロンドン、海外で働くとは
サウジアラビア(リヤド)	3月	9日	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動
アラブ首長国連邦・アブダビ首長国・バイ首長国	9月	10日	アラブ首長国連邦の「いま」
米国(ボストン)	8月	10日	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション
米国(シカゴ・ワシントンDC)	8月	8日	アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう
米国(ニューヨーク)	8～9月	5日	ニューヨークでキャリアを切り開く生き方
米国(プリンストン)	8～9月	15日	Sustainable agriculture experience at Organic Farm(USA)
米国(リッジフィールド)	9月	15日	ニューヨーク有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験(米国)
米国(サンフランシスコ)	8月	8日	シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験
ベトナム(ハノイ)	8月	5日	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる!～ハノイの学生・企業等との交流(訪問先はオーダーメイドで調整可能)～
インド(ニューデリー)	9月	6日	インドに向けて東大・日本の魅力を発信―日本留学推進活動サポートと学生交流
台湾(台北市・南投県)	9月	6日	台湾大学実験林での体験活動～亜熱帯の森林と林業を学ぶ～
中国(海南島)	7～8月	8日	中国・海南島の自然保護区管理を知る
インド(デリー)	2～3月	9日	インド人学生との学生交流およびインド文化体験活動 日本語教育のサポートと企業訪問をととして

※上記プログラムは2023年11月現在のもので、実施調整中のもものあります。また2024年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、およびウェブサイトで最新情報を確認してください。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけではなく、ボランティア、就労体験、農林水産業・地域体験、フィールドワーク、研究室体験等、様々な活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。



①ニューイングランド有機農場(米国) ②アラブ首長国連邦
③ハーバード大学医学部研究室訪問 ④韓国

●SNS上にて、修了生の体験記事を連載記事にして掲載しています。こちらも併せてご参照ください。

【X(旧Twitter)】 <https://twitter.com/Utokyotaiiken>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/199334930268654/>

※学生の所属は、活動当時のものです。

4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)

東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)は、2019年度、世界で活躍できるグローバル人材の育成のため、ビジネスの最前線を体感できるプログラムとしてスタートしました。2023年度現在、東京大学と産学協創協定を締結しているダイキン工業(株)、ソフトバンク(株)、(株)クボタの3社が受入先となっています。グローバル・インターンシップは、学生の学びを社会と結ぶ貴重な機会となります。異なる文化背景を持つ人々との出会いと多様な体験を通じて、未知なる価値観やアイディアに触れることで、参加学生は知の探究を深め、問題解決能力を高める力を養うことができます。今後、新たな受入先企業が追加される可能性もありますが、内容やスケジュールは各企画ごとに異なります。

【応募資格(抜粋)】学部または大学院修士課程の学生



国内セッションの様様(ダイキン工業(株)企画)



米国ホワイトハウス横にあるダイキン工業(株)のサステナビリティ&イノベーションセンターを訪問(ダイキン工業(株)企画)



2022年度企画上位入賞者のグローバル・インターンシップ (@Aurangabad, India) (ソフトバンク(株)企画)

情報については変更される場合があります。事前説明会やウェブサイトにて、今年度実施するプログラムや最新情報を確認してください。



<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/ugip.html>

参加者への経済的支援

ダイキン工業(株)企画及び(株)クボタ企画
海外現地活動における航空券、宿泊ホテル代は受入先が全額負担。食事代や交通費は一定額を支給。
ソフトバンク(株)企画(連携・Findability Sciences Inc.)
ハッカソン企画における上位入賞者の海外渡航費について、航空券、宿泊ホテル代は受入先が全額負担。
※経済的支援の内容は企画ごとに異なります。
既存企画の支援内容も、変更される場合があります。

①ダイキン工業(株)企画

Global Business Experience by DAIKIN

世界170カ国に展開するグローバルNo.1空調メーカー「ダイキン工業(株)」の海外拠点に身を投じ、激変するグローバルビジネスを経験。2023年度は〈北米滞在型〉〈欧州滞在型〉〈アジア滞在型〉〈世界一周型〉の4テーマの課題に対して、国内の事前学習で仮説を構築。海外現地では、ダイキン工業(株)の役員や現地社員との対話、研究開発拠点や工場の見学、消費者へのインタビュー調査等、現地のリアルを体感し仮説を再検討。プログラムの最後には東京大学における最終報告会で、ビジネス提案と「グローバル人材」の認識について発表しました。

②ソフトバンク(株)企画

AIを活用した未来のライフスタイルを考えよう!

勉強会・交流会・データハッカソン

ソフトバンク(株)のAIポートフォリオの中で、Axross Recipeに公開されている実データや、Web上に公開されているオープンデータを使用し、AIを活用して課題解決するサービス・ビジネスアイデアを立案し、プロトタイプを作成して英語で発表します。また、ハッカソンに向けて、複数の勉強会等を実施します。(上位入賞者・チームは2024年度のグローバル・インターンシップに無料招待)
(2022年度企画の上位入賞者はFindability Sciences Inc.のインド拠点でグローバル・インターンシップを実施し、AIとデータサイエンスがビジネスにどう活用されているかを学びました)



タイの稲作風景（(株)クボタ企画）

③(株)クボタ企画

世界が直面する食料課題解決策の提案

～持続可能な「食」の未来を創るために～

120カ国以上にグローバル展開し、海外売上比率は約78%、世界規模の社会課題解決に貢献し、地球と人の未来を支え続ける(株)クボタのタイ拠点を訪問し、チームで課題解決に挑戦します。タイ現地では、サイアムクボタ(SK)の工場で農業機械の製造や、クボタファームにて最先端の農業技術を学びつつ、現地市場や博物館、寺院をめぐり、異文化理解を深めます。海外渡航後には(株)クボタのグローバル技術研究所にて、成果報告会を実施します。



2023年度夏季アイデアソンの様子(ソフトバンク(株)企画)



タイの生産拠点を視察(ダイキン工業(株)企画)

プログラム参加者の声

●2023年度ダイキン工業(株)企画 参加者

「欧州に2週間滞在。文化の異なる地で戦略的にビジネスを行うことの面白さ、日本だけでなく世界の多くの人々を幸せにすることの素晴らしさを実感。必ずグローバルを舞台に活躍したいと考えようになった。」
「世界規模で成長する企業を様々な側面から間近で見ると大変貴重な経験だった。シリコンバレーにあるダイキンの研究所、ワシントンD.C.のNGOや政府との連携、マーケティングや製品製造の様子、卸の営業所や一般家庭の見学。社員が目的を持って働いた結果、巨大な市場に製品を供給できている、ということを実感できました。」
「自分と他者がお互いに歩み寄って、言語の壁を超えてなんとか互いのことを理解しようとする。そして最後はお互いが笑顔になって手をあわせる。僕はUGIPを通して異文化理解の原点を体感しました。」
「それまで海外経験が一切なく、飛行機にすら乗ったことがなかった私にとって、UGIPは新たな世界への扉を開ける機会であり、たくさんの感動と気づきを与えてくれました。」
「実際に現場を見ることの重要性を学んだ。現地社員の方々から、安易に欧州全体を一括りにせず、各国・各地域を直接見て学ぶこと、文化や歴史的背景から学ぶことの大切さを教わった。」

●2022年度ソフトバンク(株)企画 上位入賞者

「現地社員の方々がAIの技術やそれを用いた実際のプロダクトについて熱心に教えてくださり、特にビジネス面でのAIの活用、アプリケーションについての知見を得た。また、実際にAIを用いた事業アイデアを考えるグループワークで、ビジネスの考えを学ぶことができた。」
「普段学術サイドでAIの研究を行っているが、ビジネス視点で考えたことはほとんどなかった。今回実際のプロダクトを見ながらビジネスについて学んだことで、普段研究していることをどう社会に活かすかについて考えられるようになり、視野が広がった。」
「LLM(大規模言語モデル)に関しては、ChatGPTを日常使用すること以外、あまり触れたり、勉強したりすることがありませんでしたが、LLMについての知識や活用方法を学ぶモチベーションを得ました。」
「Findability Sciencesやソフトバンクの皆様が労力をかけて丁寧にプログラムを構成されていたことを痛感いたしました。(中略)インドの文化やインドの人々の温かさに触れ、1週間のプログラムながらも、知識的にも精神的にも大きく成長できました。」

5) 学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約5,000名の留学生在学しています。留学の準備や国際交流の機会として、キャンパス内での国際体験を活用しましょう。以下に一例を紹介します。

グローバル教育センターによる国際交流活動の例

グローバル教育センターでは、様々な国際交流活動を実施しています。

(1) 本郷キャンパス

留学生との交流を目的として、留学生支援室では言語交換プログラム、中国語茶話会等を実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下の「留学生支援ウェブサイト」でご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac.html>



(2) 駒場キャンパス

留学生とともに日本伝統芸能の鑑賞や文化体験をするイベントから、ダンス・スポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。また駒場Ⅱキャンパスでは、国際交流を目的としたInternational Gatheringを開催しています。このほか、新入留学生を対象とした駒場キャンパスツアーのガイド等、積極的な交流の機会を提供しています。詳細はGlobal Komabaウェブサイトでご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>



(3) 柏キャンパス

柏キャンパスで学ぶ留学生、外国人研究者およびその家族と1対1で交流するための「1対1交流プログラム」や「言語交換プログラム」を始め、日本人構成員と外国人構成員が学び合うためのイベントを定期的に行っています。また、英語学習支援として、英会話講座や英語相談オフィスアワー、英語論文執筆のためのワークショップ等、様々なプログラムを提供しています。詳細は以下よりご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/kashiwa.html>



グローバル教養科目(グローバル教育センター提供)

2023年度に新しく始まった「グローバル教養科目(Global Liberal Arts Courses)」は、後期課程(3/4年)以上のすべての学生が履修できる、英語による授業です。学生のみなさんは、留学生とともに、国籍や専門分野の枠を超えて、世界の喫緊の課題を議論することができます。とりあげるテーマはジェンダー、ダイバーシティ、健康、貧困、GX等のSDGsに関連するものが中心です。授業は少人数のインタラクティブ形式で行われ、学生のみなさんにアクティブラーニングの機会を提供します。変容続ける国際社会で、存在感を示すことのできるアサーティブなスキルを持つ人材の養成を目指しています。開講科目一覧等、詳しくは、右記のURLとUTAS(東京大学の学務システム)をご覧ください。



詳細はこちら



<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/globalliberalarts.html>

International Lounge(IL)

ILは、東京大学の学生および教職員の方に多文化国際交流の場を楽しんでいただける、工学系研究科国際工学教育推進機構の国際教育部門が主催するイベントです。学期中の毎週金曜日12:10~13:10に、工学部11号館の2階(T-Loungeおよび2階テラス)で開催されます。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が集まって、持ってきたランチを食べながら、リラックスした雰囲気です。専門や国を超えて交流しています。趣味の話題から突っ込んだ議論まで、英語でも日本語でも気軽にしゃべりを楽しんでください。年に数回、楽しい季節のイベントも開催しています。英語、日本語、その他の言語で語り合いながら友達を作りたい方、国際交流に興味のある方、新しい人に会おうチャンスです!本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流をしてみませんか。事前の参加登録は必要ありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。スケジュールや開催地等は、右記のQRコードからご確認ください。



Instagramにアクセス



<https://www.instagram.com/ilatutokyo/>
<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/icyou/>
<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/il.html>

グローバルゼーションオフィス(総合文化研究科・教養学部)

グローバルゼーションオフィスでは、駒場キャンパスで学ぶみなさんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の三つです。様々な国と地域、そこで暮らす人々や生活、社会等について広く見識を深めたい学生には、毎年数回、様々な分野で活躍する国際経験豊かな専門家を招聘し、カジュアルな講演会やセミナーを開催しています。国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が共に参加できる交流型イベントやワークショップを開催しています。もっと主体的に、留学生と関わりたい学生は、英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートするGO Tutorとして活躍する機会があります。活動は主にグローバルゼーションオフィスのラウンジで行います。年に2回程度、新メンバーを募集していますので挑戦してみてください。海外留学に興味のある学生には、留学相談、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会等を開催しています。教職員や学生留学アドバイザーが学期中、個別の留学相談にも応じています。また大学の交換留学プログラムで海外留学が内定した駒場に所属する学生を対象に留学前研修を実施しています。これらのイベント、プログラム、活動に興味を持った方はグローバルゼーションオフィスのX(旧Twitter)をチェックしましょう。



X(旧Twitter)にアクセス



<https://twitter.com/UTokyoKomabaGO>

Global Studies Program(GS)

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合(学科横断型)プログラムの一つですが、提供されている科目は他学部の後期課程の学生も受講が可能です。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク等を通して共同演習を行います。他にも幅広い内容の授業が主に英語で開講され、留学生と共に学ぶことができます。教室以外でも、交換留学生を交えてディスカッションの場を設けたり、卒業生や政府・民間機関で活躍されている方のお話を聴く企画等を実施しています。授業以外のこれらイベントは学部・学年を問わずすべての学生が参加できます。文化の多様性、多文化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちが共に学び、活動する場を提供することによって、国際的な視野を身につけ、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。留学を考えている学生にもそうでない学生にも、駒場キャンパスにいながらブレ留学体験ができる場ともなっています。

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)は、工学系研究科国際工学教育推進機構が主催する、英会話に慣れたい・英語力を向上させたいという東京大学の学生・職員向けのプログラムです。日常会話・プレゼンテーション・ディスカッション・TOEFL対策等様々なコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。複数の英語学校から経験豊かな講師を招き、毎年Sセメスター(4月募集)とAセメスター(10月募集)に8~10週間ずつ本郷キャンパスで放課後に開講しています。みなさんも週1~2回、集中して英語に取り組んでみませんか。自分で英語を話すアウトプットの機会がない、そのために英語で言いたいことがなかなか言えないといったことに悩んでいる方には、特にお薦めです!SELによって、みなさんが本来持っている英語の潜在能力が発揮できるようになります。キャンパス内で気軽に受講できるSELに、ぜひご参加ください。



詳細はこちら



https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/en/international/global_learning/
<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/international/learning/gs.html>



詳細はこちら



<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/sel/index.html>

UTokyo Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Programは、未来の科学者・イノベーターの育成を目的として、主に医学・生命科学系分野を専攻する学部学生を対象に、世界の20を超える大学・機関において実践的・専門的・集中的な研究体験の場を提供する夏季インターンシッププログラムです。航空賃や宿泊費、生活費等の費用がプログラムから支給されます。東京大学の学生は、東京大学に加え、アジアプログラム採択校である京都大学、シンガポール国立大学、清華大学で開催されるプログラムにも応募することができます。いずれのプログラムでも、意欲ある学生達が集まり、積極的に研究活動に取り組んでいます。東京大学プログラム参加者は、期間中全員が同じ宿舎に滞在し、医・工・理・農・薬・生研の大学院/研究所の研究室に所属して最先端の研究に携わり、また研究発表や小旅行等、様々なイベントに参加します。そしてプログラム終了後には、アジアプログラム4校合同のシンポジウムに参加し、研究発表や他大学の参加者との交流も行います。募集期間は11月~翌年2月上旬、プログラム実施は6月上旬~8月上旬の予定です。

UTokyo Amgen Scholars Program



https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html



Amgen Scholars Asia Program



<https://www.amgenscholars.com/asia-program>

UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) は、グローバル教育センターが提供する、海外の学生向けの短期受入プログラムです。世界中の優れた学生を対象に東京大学の教員がすべて英語で講義を行うこのプログラムには、東京大学の学生も特別価格で参加できます。UTokyo GUCに参加することで、留学のような費用がかからず、東京に居ながらにして、馴染みあるキャンパスで世界中の学生と交流しながら英語環境で学ぶことができます。受講生には「グローバル・ユニット(※)」が付与され、成績が記載されたCertificateが、グローバル教育センターより発行されます。

※グローバル・ユニットは国際総合力認定制度(p20参照)の活動として利用可能です。学部・研究科が提供する通常の単位とは異なり卒業要件等には算入できません。

- **期間** 2024年6月中旬～7月末(各コース1～2週間)
- **開講コース数** 23コース(対面15・オンライン8)
- **対象** 海外の大学に在籍する学生・東京大学の学生
- **受講料(東京大学の学生の場合)**
対面コース 1ユニット:17,000円
オンラインコース 0.5ユニット:3,000円
- **その他**
 - ・主に学部学生を対象とするが、大学院学生の受講も可
 - ・受講生は、書面審査を経て決定
 - ・受講が決定した学生は、修了できるよう必ず最後まで講義に参加してください
- **詳細**
開講コースのシラバスや応募の詳細についてはGUCウェブサイトを確認してください

参加者の声

東京大学教養学部文科二類2年
(プログラム参加当時)

“As a UTokyo student who participated in GUC, what impressed me most was that all students were participating so actively. It was sometimes hard to keep up with them and to state my opinions in the class, but I was inspired so much by such attitude of other students. Also, as the atmosphere of the class was so welcoming, I was able to try my best without being afraid of making mistakes. I listened to various opinions and feelings from the international students, and I think these circumstances made the class more meaningful and fun.”

最新情報はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>



2023年度のGUCには、世界20ヵ国の83大学から、計207名の学生が参加しました



6) 各学部・研究科の取り組み

①学部・研究科間交換留学 協定校一覧

各学部・研究科が独自に行っている「学部・研究科間交換留学」の協定校一覧です。
プログラムへの応募方法、最新情報等は各学部・研究科の担当部署で確認しましょう。

※(M)は修士のみ、(D)は博士のみ

国・地域	協定校	対象
法学政治学研究科・法学部		
中国	北京大学法学院	院
中国	北京大学国際関係学院	学部/院
韓国	ソウル大学校法科大学院	院
ベルギー	ルーヴェン・カトリック大学法学・犯罪学部	学部/院
オーストラリア	オーストラリア国立大学法科大学院	院
医学系研究科・医学部		
台湾	国立台湾大学医学部	学部
韓国	ソウル大学校医学科	学部
シンガポール	シンガポール国立大学医学部	学部
タイ	マヒドン大学シリアート病院	学部
米国	ジョンズホプキンス大学医学部	学部/院
米国	ペンシルバニア大学医学部	学部/院
米国	ミシガン大学医学部	学部/院
米国	ハワイ大学医学部	学部
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学医学部	学部
スウェーデン	カロリンスカ研究所	学部/院
工学系研究科・工学部		
台湾	国立中山大学理学院・工学院	学部/院
中国	西安交通大学	学部/院
中国	大連理工大学	学部/院
中国	同済大学院 ※新領域と担当	学部/院
中国	北京交通大学	学部/院
香港	香港理工大学建設・環境学部	学部/院
インド	インド工科大学マドラス校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カラグプール校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カンプール校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学デリー校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※情報理工と担当	院
インド	インド工科大学ルールキー校	学部/院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※情報理工と担当	院
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院[AMU] ※新領域と担当	院(M)
タイ	アジア工科大学院	院
タイ	チュロンコン大学工学部 ※対象専攻・学科限定	学部/院
タイ	タマサート大学国際工学部(SIIT)	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理科大学	学部/院
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院
トルコ	イスタンブール工科大学理工学部	学部/院
カナダ	マクマスター大学	学部/院
米国	マサチューセッツ工科大学 ※対象学科限定	学部
米国	カリフォルニア大学(全校)	学部/院

国・地域	協定校	対象
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院
オーストラリア	クイーンズランド工科大学理工学部	学部/院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院
フィンランド	アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	学部/院
フランス	ソルボンヌ大学(旧:ピエール・エ・マリー・キュリー大学(パリ第6大学))工学部	学部/院
フランス	セントラルスープレック(旧:エコール・セントラル・パリ)	学部/院
フランス	エコールアトランティック(旧:エコール・デ・ミン・ド・ナント)	学部/院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	学部/院
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院
フランス	エコール・デ・ボン・パリテク(ENPC)	学部/院
フランス	航空宇宙高等学院(ISAE)	学部/院
フランス	国立民間航空大学校(ENAC)	学部/院
フランス	エコール・セントラル・リヨン	学部/院
フランス	トロワ工科大学	学部/院
フランス	パリ・サクレイ高等師範学校(旧:カシャン高等師範学校)	学部/院
フランス	コンピエーニュ工科大学	学部/院
フランス	サヴォア・モンブラン大学	学部/院
フランス	パリ・サクレイ大学(旧:パリ南大学(パリ第11大学))	学部/院
フランス	ボルドー大学	学部/院
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン工科大学(TUM)	学部/院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク工学部	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学・コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※理学系と担当	学部/院
ドイツ	ブランデンブルク工科大学	学部/院
ドイツ	ワイマール・パウハウス大学土木工学部	院(M)
ドイツ	ルール大学ボーフム機械工学部	学部/院
イタリア	トリノ工科大学 ※情報理工と担当	学部/院
イタリア	ミラノ工科大学	学部/院
イタリア	聖アンナ大学院大学バイオリボティクス研究所[GSDM]	学部/院
イタリア	トレント大学 ※情報理工と担当	学部/院
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院
オランダ	トエンテ大学	学部/院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学マネジメントスクール	学部/院
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院

国・地域	協定校	対象
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学	院(M)
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部 ※情報理工と担当	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学理工学部[GME]	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ(EPFL)	学部/院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※新領域と担当	学部/院(M)
人文社会系研究科・文学部		
中国	山東大学儒学高等研究院・韓国研究中心	学部/院
中国	北京大学歴史学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学哲学宗教学系 ※総合文化と担当	院
香港	香港中文大学文学院	学部/院
韓国	ソウル大学校人文大学	院
イラン	テヘラン大学	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール(リヨン校)	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学 ※総合文化、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン ※総合文化と担当	学部/院
イタリア	ピサ高等師範学校	院
英国	カーディフ大学	学部/院
理学系研究科・理学部		
韓国	ソウル大学校自然科学大学	学部/院
チリ	マガジャネス大学	学部/院
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
米国	カリフォルニア大学	学部
ベルギー	ゲント大学理学部	学部/院
ベルギー	ルーヴェン・カトリック大学理学部	学部/院
フランス	国立工学研究センター(ENSICAEN)	学部/院
フランス	パリ・サクレー大学(旧:パリ南大学(パリ第11大学))	学部/院
フランス	ボルドー大学ポールバスカル研究センター	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンスおよび自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※工学系と担当	学部/院
ドイツ	ハイデルベルク大学バイオサイエンス学部／ハイデルベルクバイオサイエンス国際大学院	学部/院
ドイツ	ライプニッツ大学ハノーバー 自然科学研究科	学部/院
イタリア	フェーラー大学物理学・地球科学部	学部/院
イタリア	ペルージャ大学物理・地質学科	学部/院
ノルウェー	オスロ大学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学	学部/院
ロシア	ロモノーソフ記念モスクワ国立大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学コンピュータ科学・電子・宇宙工学部	学部/院
農学生命科学研究科・農学部		
台湾	国立台湾海洋大学	学部/院
台湾	国立中興大学獣医学院	学部/院
台湾	国立屏東大学科技獣医学院	学部/院
台湾	国立台湾大学生物資源農学院	学部/院
中国	中国農業大学	学部/院
中国	東北林業大学	院
中国	南京農業大学	学部/院

国・地域	協定校	対象
中国	南京林業大学	院
中国	北京林業大学	学部/院
中国	西南大学	学部/院
中国	海南大学林学院	学部/院
中国	浙江農林大学	学部/院
中国	福建農林大学	学部/院
インド	タミルナードゥ農業大学	学部/院
インドネシア	ボゴール農科大学(IPB)	学部/院
インドネシア	ムラワルマン大学	学部/院
インドネシア	ランブン大学農学部	学部/院
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	学部/院
韓国	ソウル大学校獣医科大学	学部/院
韓国	釜慶大学校水産科学大学	学部/院
韓国	釜慶大学校環境海洋科学大学	学部/院
マレーシア	マレーシア・サバ大学	学部/院
モンゴル	モンゴル生命科学大学	学部/院
モンゴル	モンゴル国立大学工学応用科学部	学部/院
スリランカ	ルフナ大学	学部/院
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部・林学部	学部/院
タイ	コンケン大学農学部	学部/院
タイ	チェンマイ大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国立農業大学	学部/院
ベトナム	カントー大学	学部/院
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	学部/院
オーストリア	ウィーン自然資源生命科学大学	院
フランス	アグロパリテック	院
ドイツ	カールスルーエ工科大学	学部/院
ドイツ	ボン大学開発研究センター	院
スウェーデン	スウェーデン農科大学	学部/院
経済学研究科・経済学部		
米国	ブランダイス大学	学部
フランス	HEC経営大学院(HEC Paris)	学部/院
ドイツ	デュースブルク・エッセン大学東アジア研究所	院
ドイツ	フランクフルト大学経済・経営学部	学部/院
スウェーデン	ストックホルム・スクール・オブ・エコノミクス(SSE)	学部/院
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)社会・歴史学部	学部
総合文化研究科・教養学部		
台湾	国立政治大学歴史学系	院
台湾	国立政治大学台湾史研究所	院
中国	華東師範大学思勉人文高等研究院	院
中国	北京大学歴史学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学哲学系宗教学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院(東アジア藝文書院(EAA)「東アジア教養学」プログラム)	学部
韓国	韓国外国語大学校日本大学	学部/院
シンガポール	シンガポール国立大学理学部	学部
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属日越大学	院
米国	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	院
カザフスタン	アルファラピカザフ国立大学東洋学部	学部/院
フランス	パリ・シテ大学(旧:パリ第7・ディドロ大学) ※人文社会系、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※人文社会系と担当	学部/院

次ページへ続く

国・地域	協定校	対象
フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学	院
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ユストゥス・リービヒ大学ギーセン社会科学・文化学研究科、メディア論研究センター	学部/院
ドイツ	ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部	学部/院
ドイツ	トリア大学第二学部、第三学部	学部/院
ドイツ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン社会科学部 ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	フランクフルト・ゲーテ大学 総合言語文化研究学部	学部/院
イタリア	トレント大学統合生物学センター	学部/院
イタリア	トリノ大学人文学学科	学部/院
ロシア	ロシア国立人文大学	休止中
スペイン	セビリア大学哲学部	学部/院
英国	エセックス大学	学部
教育学研究科・教育学部		
スウェーデン	ストックホルム大学教育学部	学部/院
薬学系研究科・薬学部		
中国	瀋陽薬科大学	院
米国	テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	院
ドイツ	ボン大学リサーチ・トレーニンググループ1873	院
スウェーデン	イエテボリ大学S.A.アカデミー	院
数理科学研究科		
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユールリヨン数学科	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学 ※人文社会系、総合文化と担当	院
ロシア	国立研究大学高等経済学院(HSE)	院
新領域創成科学研究科		
中国	同済大学院 ※工学系と担当	院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院[AMO] ※工学系と担当	院(M)
韓国	韓国科学技術院(KAIST)工学研究科	院
ブラジル	ベルナμπコ連邦大学	院
ブラジル	サンタカタリーナ連邦大学	院
ブラジル	パラナ連邦工科大学	院
コロンビア	エアフィト大学	院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユールリヨン	院
フランス	エコール・セントラル・ドゥ・ナント校	院
フランス	ジャンモネ大学	院
フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ヴァル・ド・セヌ校	院
ドイツ	ボン大学開発研究センター ※農学系と担当	院
英国	インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻	院
ノルウェー	スタヴァンゲル大学ビジネススクール	院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学	院
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※工学系と担当	院(M)
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	院
情報理工工学系研究科		
中国	北京大学(計算機学院)	院

国・地域	協定校	対象
インド	インド工科大学マドラス校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学カンプール校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学デリー校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※工学系と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※工学系と担当	院
タイ	チュラロンコン大学工学部、理学部	院
オーストリア	ウィーン工科大学(VUT)	院
デンマーク	デンマーク工科大学(DTU)	院
フィンランド	アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	院
フランス	エコール・スーペリユール EA(ESIEA)	院
フランス	セントラルスープレック(旧:エコール・セントラル・パリ)	院
フランス	IMT Atlantique(旧:エコール・デ・ミンド・ナント)	院
フランス	パリ・サクレー高等師範学校(旧カシャン高等師範学校)	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	院
フランス	ソルボンヌ大学	院
ドイツ	ミュンヘン工科大学(TUM)	院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学(TUD)	院
ドイツ	ウルム大学	院
イタリア	トリノ工科大学 ※工学系と担当	院
イタリア	トレント大学 ※工学系と担当	院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学(NTNU)	院
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部 ※工学系と担当	院
学際情報学府		
韓国	ソウル大学校社会科学大学言論情報学科	院
公共政策学連携研究部・教育部		
中国	北京大学国際関係学院(PKU-SIS)	院
韓国	ソウル大学校国際大学院(SNU-GSIS)	院
シンガポール	シンガポール国立大学リリー・クアンユー公共政策大学院(LKY-SPP)	院
ブラジル	ジェトゥリオヴァルガスビジネススクール(FGV)	院
米国	コロンビア大学国際公共政策大学院(SIPA)	院
米国	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)ラスキン公共政策大学院公共政策学科	院
オーストラリア	オーストラリア国立大学(ANU)クロフォード公共政策大学院	院
デンマーク	コペンハーゲン大学社会科学研究科	院(D)
フランス	パリ政治学院(Sciences Po.)	院
フランス	HEC経営学院(HEC Paris)	院
ドイツ	ヘルティエ・スクール(Hertie School)	院
ドイツ	ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies (GPTS)	院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(LSE)	院
英国	ロンドン大学キングスカレッジ社会科学公共政策研究科	院
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	院

※2024年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。
※担当学部・研究科ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当学部・研究科に確認してください。

②各学部・研究科によるプログラム

海外武者修行 (工学系研究科・工学部)



工学系研究科・工学部では、学生が海外の大学・研究機関を訪問するための渡航費支援の取り組みとして、「海外武者修行」を実施しています。参加学生は、自分で海外の著名な研究室への訪問をアレンジし、自分の研究成果について発表を行います。各分野の一流の専門家からレビューを受けることにより、当該分野の国際コミュニティにおける自分の研究の立ち位置を確認し、研究へのモチベーションを高めると同時に、国際共同研究のきっかけを掴むことが期待されています。

これまでオックスフォード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする世界各国の大学・研究機関の研究室への派遣実績があり、参加学生にとっては、海外の研究現場を肌で感じることで、今後の研究やキャリアについても考えを深めることができる貴重な機会となっています。

海外武者修行へチャレンジしたい方は、工学系研究科・工学部学生用情報ポータルサイトの通知を参照してください。

対象学生:工学系研究科・工学部の学生(詳細は募集要項を参照)
実施期間:募集要項にて確認
応募方法:募集要項に従って期日までに応募書類を提出する
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
oice-jimu.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

国際交流促進プログラム (農学生命科学研究科)



本プログラムは、留学を通じて国際的な経験と知識を身につけ、より深く、かつ幅広い研究活動の発展に資することを目的とし、奨学金の支給により海外の大学、研究所・研究機関等への留学を応援します。本プログラムにより、若い時期に多様な専門分野の研究に参画することで、海外における最先端の研究手法や当該分野での人脈の獲得、国際的な人的ネットワークの形成等が期待され、また英語でのコミュニケーション能力の向上も期待されます。

本プログラムは、1.自らの自由な発想で留学計画を組み立てられる
2.留学先・研究内容等の自由度が比較的高いプログラムである
3.主に海外留学を経験したことのない者を優先する、を特色としています。詳細については、本研究科のウェブサイト参照してください。

対象学生:農学生命科学研究科に在学する大学院学生(修士課程内定者含む)
実施期間:2024年7月～2026年3月(予定)のうち3ヶ月～1年
応募方法:書類審査(年2回募集)
URL:https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:農学系教務課学生支援チーム(学生生活担当)

詳細はこちら



理学部学生国際派遣プログラム(SVAP) (理学部)



本プログラムでは、選抜された理学部学生を研究実習(インターンシップ)や短期講座受講(サマースクール等)のため海外の大学や研究機関に派遣しています。学生は興味のある分野の研究を行っている海外の教員や研究者に自力でコンタクトを取り、インターンシップの受入許可を得るか、参加したい海外プログラムを見つけ応募等の必要な手続きを行った上でSVAPに応募します。書類審査と英語による面接を経て採択された場合は、自分で渡航計画を立て理学部の経済支援のもと海外での研究や講座受講を体験します。これまでの派遣生は、様々な大学や研究機関へ渡航し、充実した研究や学修の体験を得て帰国しました。

https://www.facebook.com/UTokyo.SVAP/
ハードルの高いプログラムですが、その分、プログラムへの参加を経て大きく成長することができます。また、自分で行き先も期間も決められる自由度の高さも好評です。

対象学生:理学部学生ならびに理学部に内定している推薦入試入学者
実施期間:5月～翌年2月の間の2週間～2ヶ月間未満(応募者自身が決定)
応募方法:応募書類提出(派遣の前年度の2月上旬頃締切)
URL:https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/offices/ilo/svap/application.html
お問い合わせ先:理学部学務課国際チーム
intl.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

東京大学リベラルアーツ・プログラム (総合文化研究科・教養学部)



リベラルアーツ・プログラム(LAP)は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。中国の南京大学と連携し、(1)毎年3月に学部1、2年生を南京に派遣してフィールドワークとグループ討論を行います(1週間派遣)。(2)毎年8月に南京大学で中国語の特訓サマースクールを実施し、中国語履修の学部2年生を派遣します(3週間派遣)。(3)毎年Aセメスターに南京大学の学生を日本に招き、東京大学の学部生とともにフィールドワークとグループ討論を行います(1週間)。(4)中級レベル以上の中国語履修者を対象に、中国社会文化研修「深思北京」、中国人民大学と連携して、秋に開講しています(1週間派遣)。詳しい紹介と参加者の体験談はLAPのウェブサイトをご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生:主に学部学生が対象だが大学院学生も参加可
専攻・学年の別は問わない
実施期間:上記参照
応募方法:レポート審査もしくは面接
URL:http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門

詳細はこちら



赤十字国際委員会地域事務所インターンシッププログラム (総合文化研究科・教養学部)



総合文化研究科・教養学部と赤十字国際委員会(ICRC)との協定に基づき、教養学部4年生、または総合文化研究科修士課程2年生をICRCインドネシア・東ティモール地域事務所に2～3ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとしてICRCの政策に関する諸領域(国際人道法・プロテクション・研修・アドボカシー)においてICRCが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、同事務所が展開する事業の実践的な業務補助を行います。国際法や国際情勢、国際機関等について勉強・研究する学生に、実践を通して学術的な学びを補完するプログラムであり、将来国際機関、国際法、平和構築、紛争解決等の分野で活躍したい学生にその実践的な機会を提供するものです。具体的な派遣時期・期間は、教養学部・総合文化研究科からの学生の推薦を受けてICRCインドネシア事務所が決定します。

対象学生:教養学部4年生、または総合文化研究科修士課程2年生
実施期間:2～3ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:応募書類提出。書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部 国際交流センター国際研究協力室
irco-komaba@adm.c.u-tokyo.ac.jp

海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム (公共政策学教育部)



公共政策学教育部(GraSPP)は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院であり、学生数の約半分を留学生が占めています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあり、現在、14大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム(DD)を行っています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東京大学で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で二つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。詳細についてはGraSPPのウェブサイト参照してください。

対象学生:公共政策学教育部の専門職学位課程学生
実施期間:交換留学は1学期～1年、ダブル・ディグリーは1年
応募方法:プログラムの募集要項に従って、期日までに指定の書類を提出する
URL:https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/en/student-activities/double-degree-program/
お問い合わせ先:公共政策学教育部国際交流担当
exchange.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム (教育学研究科)



教育学研究科と国連教育科学文化機関(ユネスコ)バンコク事務所アジア太平洋地域教育局(ユネスコ・バンコク事務所)の協定に基づき、教育学研究科に所属する学生をユネスコ・バンコク事務所に数ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとして、国際的な教育に関する諸領域(政策、実践、調査研究等)においてユネスコが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、ユネスコ・バンコク事務所が展開する事業の業務補助を行います。学生の国際感覚を鍛える実践的なプログラムとなっており、教育や教育分野における自らのキャリアについて、国際的な視点から考える機会となることが見込まれます。具体的な時期・期間・受入部署は、教育学研究科から学生の推薦を受けてユネスコ・バンコク事務所が決定します。本プログラムの詳細は、教育学研究科学生支援チームのウェブサイト(学内限定)を参照してください。

対象学生:教育学研究科に在学する大学院学生
実施期間:9月以降に開始し、4ヶ月以上6ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:教育学研究科国際交流センター・学生支援チーム

海外派遣プログラム (法学政治学研究科)



東京大学大学院法学政治学研究科では、国際競争力ある法律家の育成を目指して、学生がそのキャリアのできるだけ早い時期に国際的な経験を積む機会を得られるように、海外のロー・ファームや国際機関にインターン・トレイニーとして大学院生等を派遣する「海外派遣プログラム」を2008年度から実施してきました。2023年度までに123名の卒業生、在学生が各国に派遣されてきました。派遣生は、総合法政専攻博士課程に在籍中の学生および法科大学院生、法科大学院修了生(その年度の卒業生、在学中司法試験受験予定者)です。例年、司法試験終了後の7月下旬頃から10月頃までの間の約1ヶ月で実践的な経験を積んでいただきます。受入先事務所とのインターン期間交渉に始まり、航空券、宿泊先の確保等をすべて学生・卒業生が自ら行い、職業だけではなく実生活での海外経験の実践も積むことができるプログラムです。

ぜひ、ウェブサイトで報告書をご覧ください。
対象学生:紹介文をご覧ください(詳細は応募要項でも確認いただけます)
実施期間:研究科、IBCのウェブサイト(下記URL)をご確認ください
応募方法:応募要項記載のフォームより
URL: http://www.ibc.j.u-tokyo.ac.jp/activities/business/exchange.html
お問い合わせ先: blc@j.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



〈特設コラム〉: Dialogue at UTokyo GlobE

グローバル教育センターでは、グローバル教育のための新たな取り組みとして、対話イベントシリーズ「Dialogue at UTokyo GlobE」を開始しました。Dialogue at UTokyo GlobEは、ゲストとして招かれた世界の著名なリーダーと、東京大学の総長・理事・学生等との対話を中心に構成されています。学生の国際的な視野を広げ、グローバルな舞台で活躍するための第一歩となることを目的とするとともに、ここでの対話を通じて、「Go Global Gateway」(p20-21)や「グローバル教養科目」(p30)への積極的な参加も期待しています。

Dialogue at UTokyo GlobE #1

ゲスト:加藤 美和 氏(国際連合薬物犯罪事務所 事業局長)

“Be the Change You Want to See: How Diversity of Perspectives Leads to Prosperity”と題し、国際連合に長年勤める加藤美和氏に、主体的な選択のもと進路を切り拓くことの重要性について講演していただきました。質疑応答では、国際的なキャリア構築や女性のエンパワメントについて等、多くの質問が寄せられました。



Dialogue at UTokyo GlobE #2

ゲスト:Jeffrey Sachs 氏(コロンビア大学 教授)

コロンビア大学や国際連合で関連要職を務めるJeffrey Sachs氏によるSustainable Developmentをテーマとした講演ののち、石井菜穂子理事司会のもと、藤井輝夫総長との対談が行われました。約100名の学生とのQ&Aセッションでは、学生からの積極的な質問に対し、Sachs氏と藤井総長による熱心な回答が行われました。



Dialogue at UTokyo GlobE #3

ゲスト:三戸 芳子 氏(マウントサイナイ医科大学 客員助教授)

東京大学の卒業生であり、米国マウントサイナイ医科大学で客員助教授を務める三戸芳子氏を講演者として招き、大学生当時の経験、米国留学、そして現在の活動に至るまでをお話いただきました。海外でキャリアを築くことに関して参加学生から多くの質問が挙げられ、それら一つ一つに丁寧にお答えいただきました。



Dialogue at UTokyo GlobE #4

ゲスト:Serena Sacks-Mandel 氏
(Microsoft社 教育部門 GlobalCTO)

UTokyo男女+協働改革#WeChangeとのコラボレーションイベントとして開催。Serena Sacks-Mandel氏が人生における様々な逆境にいかにか立ち向かい、克服していったか、そのマインドセットとキャリア形成に関する講演・Q&Aが行われました。イベント終了後も多くの学生からの質問が止まず、大盛況のうちに終了しました。



II

留学・国際交流関連情報

p39-53

1. 情報収集方法	p40-41
2. 留学にかかる費用と奨学金	p42-45
1) 費用と奨学金例	p42-43
2) 支援者からのメッセージ	p44-45
3. 留学における学籍・単位認定	p46-47
4. 語学能力検定試験	p48
5. 安全と危機管理	p49
6. 留学と就職活動	p50
7. 卒業後の大学院留学	p51
8. よくある質問	p52-53

1. 情報収集方法

有意義な留学・国際交流の成否はどれだけ情報収集を行ったかで左右されると言っても過言ではありません。
以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

東京大学全体・グローバル教育センターのプログラム情報

①Go Global ウェブサイト

留学プログラムや奨学金、安全管理等について本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新情報が掲載されています。また、過去にグローバル教育センターのプログラムに参加した学生の体験記も読むことができます。経験者の生の声を参考にしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

Go Global ウェブサイトに
アクセス



②グローバル教育センター公式ウェブサイト

グローバル教育センターおよび同センターが提供する各種プログラムの紹介、活動・イベントのレポート等が掲載されています。グローバル教養科目に関する重要なお知らせや、担当教員の情報も閲覧することができます。

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

グローバル教育センター
公式ウェブサイトにアクセス



③Go Global 公式SNSアカウント

グローバル教育センターからの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の新着情報をお知らせします。
X(旧Twitter)より以下のアカウントをフォローすれば、有益な情報をリアルタイムで得ることができます。



@todai_global

https://twitter.com/todai_global

SNSアカウントをフォロー



④留学・国際交流関連イベント

グローバル教育センターでは大規模な春の留学フェア、秋の留学説明会に加え、年に数回、小規模な留学プログラム・海外インターンシップ等の説明会を開催しています。説明会は担当者やプログラム参加者の話を直接聞くことができるよい機会です。また、海外大学や各国大使館等が主催する留学関連イベントも開催されているので目的に応じて積極的に参加してみましょう。説明会・イベントの情報は①Go Global ウェブサイトや③Go Global 公式SNSアカウント、UTAS掲示板等で紹介しています。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-events.html>

イベント情報を
確認する



2023年5月に開催した留学フェアの様子。様々なプログラムの説明を受けたり、ブース出展団体との個別相談、プログラム参加者との交流ができたりする、貴重な機会です。

⑤留学情報問い合わせ窓口(学内向け)

留学情報問い合わせ窓口では、海外留学に関する一般的な情報提供およびグローバル教育センター主催のプログラムに関する東京大学の学生からの質問に対応します。詳細等はウェブサイトからご確認ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-icenter.html>

詳細を確認する



各学部・研究科の情報

各学部・研究科独自の留学・国際交流プログラムについては、各学部・研究科のポータルサイトや掲示板、窓口等で情報が得られます。また、留学の際の東京大学での学務上の注意点(留学中の授業履修・単位・学籍等)も各学部・研究科によって異なるので、必ず申請前に担当部署へ確認するようにしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>

各学部・研究科の連絡先一覧
にアクセス



個人で参加する留学の情報

留学プログラムには、東京大学が募集するもの以外にも、海外の大学や民間の留学業者等が募集するプログラムもあります。また、留学プログラム以外にも、海外で行う活動としてインターンシップやボランティア等が海外企業、大学、国際機関等で実施されています。これらの内容・時期・期間は多岐に渡るため、みなさんの希望に合うものもきっとあるでしょう。東京大学の協定校や政府機関が募集するものについては、Go Global ウェブサイトでも随時案内しているので、参考してください。

東京大学が募集するプログラムと違い、手続きをすべて自分で進めることになるため、十分な情報収集を行うことが必要です。応募前に、留学時の所属学部・研究科の担当部署にて手続き等をよく確認しておくことも重要です。

(参考)日本学生支援機構 海外留学情報サイト「留学あっせん業者の利用について」http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/basic/agency.html

海外には数多くの東京大学同窓会があります！

東京大学卒業生のネットワークは近年急速に広がっており、海外には、35の国と地域に59の同窓会が組織されています。海外における体験活動プログラムや海外在住の卒業生とのオンライン交流会、留学に関する相談等を通じて、在学生に向けて様々なサポートを提供してくれています。世界で活躍している卒業生とのネットワークをぜひ活用してください。

海外同窓会の一覧と各同窓会のコンタクト先はこちら

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/alumni/alumni_association.html



UTokyo Overseas Alumni Associations

- You can search each alumni association on the map by the name or country/region.
- Selecting a point on the map will display the name of the alumni association and the contact email address. (If please replace "lat" with "lon".)



2. 留学にかかる費用と奨学金

1) 費用と奨学金例

① 費用一般について

長期留学の場合、国・地域や期間によりますが、一般的におよそ200～300万円以上（1年間）の学費・生活費等がかかります。留学しない場合も必要となる、日本での学費・生活費も考慮して検討してみましょう。全学交換留学や学部・研究科間交換留学等の場合には、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。また、交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引・免除・参加補助等が受けられる場合があります。



いかがでしょうか?この例以外にも、留学体験記（p9-11参照）やGo Global ウェブサイト（p40参照）に掲載されている、留学経験者の報告書にも留学に要した費用について記載があります。留学計画の参考にしてください。

② 海外留学等奨学金について

● 奨学金の種類（期間・目的・応募方法）

まず、留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満で奨学金支給の対象が分かれています。さらに、奨学金によっては交換留学、学位取得、その他（インターンシップ、ボランティア等）等、その種類や目的を限定している場合があるので注意しましょう。また、東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するもの（大学公募型）と、個人で外部団体へ直接応募するもの（個人応募型）があります。給付奨学金のほか、貸与奨学金もあります。

● 奨学金の探し方

東京大学および外部団体からの主な奨学金の公募情報は、Go Global ウェブサイト（p40参照）上で随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので、自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。奨学金の応募締切は留学開始の半年以上前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金についても情報収集すると良いでしょう。また、「他奨学金との併給を認めない」とする奨学金もあるので、併願する際は十分注意してください。

● 東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラム等、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。グローバル教育センターが実施する全学交換留学、一部の全学短期派遣プログラムについては、要件を満たす学生は学内選考時に奨学金の申請ができるため、海外有力大学の各種プログラムへ東京大学からの奨学金を得て参加することが可能です。

● 学位取得のために留学する場合

学位を取得するために留学する場合は、日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（大学院学位取得型）ほか様々な外部団体が公募している奨学金があります。

③ 主な海外留学等奨学金一覧

大学公募型（東京大学による推薦や取りまとめが必要なもの）と個人応募型（個人で直接応募するもの）があります。

- 大学公募型では、奨学金申込書を所属学部・研究科の窓口に提出してください。提出書類や提出締切については所属学部・研究科の担当部署に確認してください。
- 個人応募型では、東京大学を通さず個人で直接応募することとなります。

1) 3ヶ月以上の留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1 東京大学 海外派遣奨学事業 短期(3ヶ月～1年以内) 海外留学等奨学金	3ヶ月～1年以内	月額6～10万円	所属学部・研究科
*2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN新・日本代表プログラム～	28日～1年以内	月額6～16万円、留学準備金15～25万円、授業料等	所属学部・研究科
(公財) KDDI財団 日本人留学生助成プログラム	1～2年	月額25万円、大学院生	所属学部・研究科
(公財) 経団連国際教育交流財団 日本人大学院生奨学金	2年または1年	学費、生活費等として年間350万円を一律支給、大学院生	所属学部・研究科
(公財) 佐藤陽国際奨学財団 派遣留学奨学生	6ヶ月かつ2セメスター以上	月額10～18万円、渡航費25万円、交換留学一時金15万円	所属学部・研究科
(公財) 業務スーパージャパンドリーム財団 派遣留学奨学生	1年以内	月額15～20万円、留学一時金15または25万円、2年以上の学部学生	所属学部・研究科
TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム	1年	180万円、学部学生	所属学部・研究科
百賢亞洲研究院 AFLSP日本人学生交換留学奨学金	2セメスター以上（交換留学先大学に在学中の期間）	年額12,500米ドル（中国・香港の指定大学への留学）	所属学部・研究科
*1 東京大学トヨタ高度人工知能人材育成のための海外留学奨学金	1年（場合により延長可）	月額22万円、授業料（年額上限300万円）、人工知能分野での学修または研究	所属学部・研究科
(公財) 日揮・実吉奨学会海外留学奨学金	1セメスター以上1年以内	生活滞在費月額15万円、渡航費上限20万円、理工系（自然科学分野専攻）大学院生	所属学部・研究科
(公財) トラスト未来フォーラム 海外留学支援奨学金	5ヶ月～1年以内	月額10万円、法学部に在籍している学生	所属学部・研究科
*3 （独）日本学生支援機構 海外留学支援制度（大学院学位取得型）「大学と取り組み応募」	修士2年 博士原則3年	月額15～35万円	所属学部・研究科
*3 （公財）吉田育英会 日本人派遣留学プログラム	2年以内（審査の上、1年以内の延長あり）	学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額2,500米ドル、往復渡航費、大学院生	所属学部・研究科
*3 （公財）竹中育英会 海外留学奨学生	修士2年、博士3年 修士・博士合わせて原則5年以内	大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費等年額200万円以内	所属学部・研究科
(公財) 阪和育英会 海外留学奨学生	原則1年以内（条件により6ヶ月以上2年以内）	月額7万円、留学渡航準備金15万円、学部学生	所属学部・研究科
(一財) アジア国際交流奨学財団 川口静記念 奨学生	1年	月額4万円	所属学部・研究科
(公財) 国際協和奨学会 日本人海外留学奨学生	2年以内	月額12万円、海外の大学の正規課程に進学希望する学生	所属学部・研究科
(公財) イノアック国際教育振興財団	10ヶ月以上2年以内	月額10万円	直接応募
(公財) 平和中島財団 日本人留学生奨学生	2年以内	月額30万円、往復渡航費、大学院生	直接応募
Friends of UTokyo, Inc. 米国伊藤財団－FUTI奨学金	1学期以上2年以内	学費、滞在費等、実情に合わせて幅広く支給	直接応募
日米教育委員会フルブライト奨学生	詳細はウェブサイトを確認	大学院留学プログラム、大学院博士論文研究プログラム、研究員プログラム、ジャーナリストプログラム、フルブライト語学アシスタント（FLTA）プログラムの5種	直接応募
(公財) 松下幸之助記念志財団 松下幸之助国際スカラシップ	9ヶ月～1年	アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の大学・大学院及び政府研究機関に所属して調査研究する者	直接応募
*3 （公財）船井情報科学振興財団 Funai Overseas Scholarship	原則2年間 （英国は原則3年）	理工系分野、生命科学分野、経済、経営分野等で、Ph.D.取得を目指す学生	直接応募
*3 （公財）中島記念国際交流財団 日本人海外留学奨学生	修士課程：最長2年以内 博士課程：最長5年以内	月額30万円、支度金50万円（往路航空費含む）、復路航空賃、授業料（留学当初の2年間、年間300万円以内）、情報科学・生命科学・経営科学の分野で学位取得目的の留学	直接応募
*3 （公財）伊藤国際教育交流財団 日本人奨学生	原則2年以内	生活費月額1,500～2,000米ドル相当の円賃、学費（年額300万円以内）、往復旅費（限度額範囲内）	直接応募

注）上記給付奨学金の他、(独)日本学生支援機構が実施する貸与奨学金もあります。日本学生支援機構 「海外留学のための貸与奨学金」 <https://www.jasso.go.jp/shogakuin/about/kaigai/index.html>

2) 3ヶ月未満の留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1 東京大学 海外派遣奨学事業 超短期(3ヶ月未満) 海外留学等奨学金	3ヶ月未満	月額6～10万円	所属学部・研究科
*2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN新・日本代表プログラム～	28日～1年以内	月額6～16万円、留学準備金15～25万円、授業料等	所属学部・研究科
Friends of UTokyo, Inc. 米国の大学での夏季プログラム/インターンに参加する東京大学の学生への奨学金	夏季の数週間	約4,000米ドル 米国の大学での夏季プログラム等	直接応募

注）●この一覧は2024年2月1日現在の情報です。支援内容に変更される場合があるので、最新情報はGo Global ウェブサイトを確認してください。●*1は東京大学独自の奨学金です。●*2は支援期間が28日～1年の奨学金のため、上記の3ヶ月以上と3ヶ月未満の両欄に掲載しています。●*3は学位取得目的に限定されている奨学金です。●諸外国の政府または政府関係団体による、その国・地域の大学等へ留学する日本人を対象にした奨学金制度については日本学生支援機構のウェブサイトを参照してください。●上記は、主な奨学金の例を記載しています。他にも特定の地域在住者対象の奨学金等もあるので、Go Global ウェブサイトを確認してください。

2) 支援者からのメッセージ

“Go Global”にチャレンジする東京大学の学生に社会が期待しています！

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取り組みには、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄付による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄附奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も併せて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄付にもとづき、日本と中国との将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学の一つである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワークin南京(3月)②サマースクールin南京(8月)③東大×南大共同フィールドワークin日本(11月)④深思北京から構成されていますが、実施については時節の状況を勘案して決定して参ります。

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長



今から400年前、世界人口は5億人余、その60％はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1600年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社(EIC)の設立と、1602年のオランダ東インド会社(VOC)の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダム的人口は1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60％を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないのでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人材が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人材の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人材を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声



鶴見 響太郎
教養学部アジア・日本研究コース

私が参加した2022年の『深思北京』では、「日中の民間交流」をテーマとし、その最前線にいる人にインタビューをするという活動を行いました。基本的にはオンラインで実施されましたが、幸いにも私は北京に留学していたため現地で参加できました。活動は中国人民大学の学生と作る数人のグループごとに行い、私のグループは北京在住の日本人記者の方にインタビューを行いました。

私は一連の交流から、通常の旅行や留学では得がたい非常に貴重な経験を得ることができたと感じています。実際に民間交流の最前線で働く社会人の方に会ってお話を聞くことができたのはもちろんのこと、人民大学の学生と深く交流できたこと自体も非常に貴重な経験でした。同じ世代の学生だからこそ、気軽な会話や何気ない雑談、また時には率直な意見交換をすることができ、毎回小さな会話から様々な気づきを得るとともに、言語・文化の垣根を超えて親しい関係性を築くことができました。総じて、民間交流を直接に体験できた非常に有意義な経験でした。

最後に、ともに活動した東京大学と中国人民大学の学生のみなさん、指導・支援してくださった両大学の先生方、そして関係するすべての方々に感謝申し上げます。

Go Global奨学金「Fung Scholarships」支援者からのメッセージ

東京大学グローバル・アドバイザリー・ボードのメンバーの一人であったVictor K. Fung氏が代表を務める香港のVictor and William Fung Foundationによる、学部学生の留学を支援することを目的にしたFung Scholarshipsが2015年度よりスタートしました。Fung氏は、世界の有力大学に対して学生の留学奨学金を支援しており、その奨学生達Fung Scholarsは既に6,000名に達しています。日本では東京大学の学生が初めてその仲間入りをしました。本奨学金プログラムでは、毎年20名程度の学部学生が、LLICプログラム(p16参照)や全学交換留学(p6-11参照)に参加し、Fung Scholarsとして香港大学や東京大学との協定校へ派遣されます。

Dr. Victor K. Fung
Chairman, Victor and William Fung Foundation
Group Chairman, Fung Group



Fung Scholars Programme:

With the increasing trend of globalisation, graduates with international outlook and experience of diverse cultures and environments would be the human capital critical to the continuous progress of a society. It was with this conviction, the Fung Scholars Programme, set up by the Victor and William Fung Foundation based in Hong Kong, was established to support university students to experience learning, communicating and networking outside their own culture. The recipients of the Fung Scholarships are known as Fung Scholars and Fung Fellows for postgraduates. They are chosen on the basis of their academic excellence and leadership potential.

Since the launch of the Fung Scholars Programme in Bangladesh, Hong Kong, Japan, mainland China, Singapore, Turkey, UK and USA, there have been more than 7,200 scholarship recipients benefiting from the initiatives. To maintain and energise the network of Fung Scholars and Fung Fellows, the Foundation organises an annual Leadership Conference as well as other activities. City-based local chapters are established in Tokyo, Hong Kong, Singapore, Mainland China, New York, Boston and London to provide localised platforms for Fung Scholars in different cities on ideas exchange and give back to their communities.

Fung Scholars are highly recommended to form volunteer teams and share their learning and thoughts in Fung Scholars Network Newsletters. More information of the Fung Scholarships: www.FungScholars.org.

“We hope the University of Tokyo Fung Scholars will benefit greatly from this programme, and with wider exposure and experience, share with other Fung Scholars and the community at large the experiences and insights he/she gained from his/her study and/or work experience. We hope through this platform, our Fung Scholars and Fung Fellows are able to expand their network with other Fung Scholars and Fung Fellows worldwide, and that they will be able to contribute much more to the community.”



東京でもFung Scholarsの集いを開催し、奨学生間の交流を深めています。

詳細はこちら



<https://www.fungfoundation.org/>

東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄附を頂き、東京大学の学生の“Go Global”を支えて頂いています。

米国留学の強い味方!“FUTI”(Friends of UTokyo, Inc.)の奨学金

FUTI(Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会)は、東京大学の国際化を支援する目的で卒業生を中心に設立された、米国ニューヨーク州登録のNPOです。ニューヨーク州立大学の尾島巖卓越教授(1968年理学部卒)が理事長を務め、卒業生や企業等の寄附のもとに奨学金給付や研究助成を行っています。奨学金は、東京大学と米国各大学の学生が双方向に夏季短期留学、または1学期以上の中長期留学をする場合に、応募者を選抜して支給されます。選考では、学業成績・英語成績・エッセイ、リーダーシップ実績、推薦状が均等に評価されます。リーダーシップでは、学業や研究での実績の他、高校・大学での部活動、ボランティア活動等が評価されます。次の3つの奨学金を、それぞれの寄付者の想いに沿ってFUTIが運用します。

●**米国伊藤財団—FUTI奨学金**:米国への中長期留学を対象とした奨学金です。故・伊藤雅俊氏((株)セブン&アイ・ホールディングス前名誉会長)が創立された米国伊藤財団からのご寄付を原資としています。将来日本社会に貢献が期待できる東京大学の学生、当該年度または過年度卒業生の、学部・修士課程・博士課程への留学生10名弱を毎年支援しています。また、活発な課外活動の結果、学業・英語学習に時間制約があった方や、経済的に特別な困難がある方を歓迎する奨学金(IF育英奨学金)もあります。

●**周順圭・周滝沢愛子奨学金**:東京大学と米国各大学の双方向の夏季短期および中長期の留学を対象とした奨学金です。周ご夫妻が東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)に寄付された基金を原資として2023年度から正式に発足しました。周順圭氏は上海市出身で、東京大学大学院で工学博士を取得された後に、米国で半導体関係の企業を複数成功させたエンジェル投資家です。中国・日本・米国の協調発展と、よりよい社会を作ることにつながる人材に投資されます。学部・修士課程・博士課程への留学生10名弱を毎年支援しています。

●**FUTI奨学金**:東京大学と米国各大学の双方向の夏季短期(毎年十数名)および中長期(毎年数名)の留学を対象とした奨学金です。信越化学工業(株)の米国法人Shintech, Inc.のご寄付と、多数の東京大学卒業生個人のご寄付を原資としています。過去にFUTI関連の奨学金を受け、既に社会で活躍している元奨学生からの自発的なご寄付も含まれています。東京大学の国際化進展を期待し、益々の発展を願う想いが込められた奨学金です。



UC Berkeleyでのサマーセッションの様子
※留学レポートはFUTIのウェブサイトでご覧いただけます。

詳細はこちら



<http://www.todaitomonokai.org/>

3. 留学における学籍・単位認定

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属学部・研究科の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届等）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

[海外渡航の際の主な学籍上の手続き]

- 「留学」：留学の手続きをとる
 - 「休学」：休学の手続きをとる
- 上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届等の手続きを行ってください（例：夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合等）。

[海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い]

「留学」の手続きによる場合と「休学」の手続きによる場合の違いは、右の表を参考にしてください。

※交換留学の場合は、「留学」または「研究指導の委託」の手続きが必要です。
※留学先大学で取得した単位の東京大学における認定については、事前に留学時の所属学部・研究科の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合 （交換留学）	「留学」の手続きによる場合 （交換留学以外）	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない（ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要）
修業年限	算入される	算入される	算入されない
東京大学での単位認定	可（ただし、所属学部・研究科が承認した場合）	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則（学部学生）

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学
第14条の2
学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学^{注釈1}することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。
2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定
第14条の3
学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続
第14条の4
留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書^{注釈2}を学部長に提出しなければならない。
2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い
第14条の5
第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えないものとする。
3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。
注釈
1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当部署で確認すること。
2 「留学許可願」を担当部署に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当部署に事前に相談し確認してください。

※大学院学生については以下を参照してください。

- 東京大学大学院学則 第28条（留学）
- 東京大学大学院専門職学位課程規則 第23条（他の大学院における授業科目の履修等）

※2024年2月1日現在の情報です。

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

※本ページの情報は、2024年2月1日現在の情報です。※詳細については、各学部・研究科の規則や、教務担当部署で確認してください。

学部

法学部	法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合においては、審査の上、随意科目として認定する。
医学部	単位認定を希望する場合には、事前に学務チーム（学部担当）に相談すること。なお、医学科は単位制ではない。
工学部	当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。
文学部	外国の大学で取得した単位の認定は、「留学」した場合および休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。
理学部	外国の大学において修得した科目および単位数は、手続きを行い審査の上認められた場合に、卒業に必要な単位数に含めることができる。認定を希望する者は、事前に所属学科事務室に相談の上、帰国後速やかに、単位認定申請書等必要書類を所属学科事務室に提出すること。
農学部	単位認定を希望する者は、事前に学生支援チーム（学部学生担当）に相談すること。
経済学部	学生交流協定に基づく交換留学派遣の場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教務委員会・教授会で審査の上、適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、選択科目として単位が認定され、卒業単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。
教養学部（前期課程）	外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程チーム（PEAK生は国際化推進チーム）で説明を受けること。
教養学部（後期課程）	東京大学と学生交流覚書を締結している大学に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請し、学部教務委員会・後期運営委員会において適切と判断された場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。
教育学部	原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、東京大学からの推薦に基づく留学先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。単位の認定は学務委員会の議を経た後、教授会で承認する。
薬学部	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。

大学院

法学政治学研究科	〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会が判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。
医学系研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程および博士課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、学務チーム（大学院担当）へ相談すること。
工学系研究科	外国の大学の大学院に「留学」して、専攻分野に関する授業科目を履修し単位を修得した場合、申請により、研究科教育会議の議を経て、本研究科において単位を認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位を超えないものとする。単位認定を希望する場合は、渡航前に専攻事務室に相談すること。
人文社会系研究科	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、修士課程および博士後期課程を通して15単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。また、休学の理由は「海外修学」に限る。なお、単位の認定を希望する場合は、学生支援チーム（大学院担当）に事前に相談すること。
理学系研究科	外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程および博士後期課程を通じて、15単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続きに関する指示を受けること。
農学生命科学研究科	所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。
経済学研究科	学生交流協定に基づく「留学」の身分により科目履修を目的として派遣された場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教育会議にて適切と判断された場合、本研究科の基準で単位数を換算の上、単位が認定され、修了単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。
総合文化研究科	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位および外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を日本国内で履修し取得した単位は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位（国内の他大学院において修得し、認定した単位を含む）を超えない範囲で本研究科の授業科目および単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、総合文化大学院チーム（GPEAK生は国際化推進チーム）で必要な手続きをとること。授業科目および単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目および単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。
教育学研究科	留学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目および単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目および単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて15単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。
薬学系研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
数理科学研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
新領域創成科学研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務チームへ相談すること。
情報理工学系研究科	当該専攻の審査により、修士および博士後期課程を通じて15単位を限度として修了単位に認定することができる。留学先大学で修得した単位は、該当大学院の履修時間および採点基準を考慮して、東京大学の基準で単位数および成績の換算をする（そのまま所属研究科と同じ単位数として換算されるとは限らないので注意すること）。
学際情報学府	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程または博士後期課程の修了に必要な単位として認定することができる。認定された単位については、修了に必要な単位数には他研究科科目として算入する。単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。
公共政策学教育部	公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、専門職学位課程の修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。博士後期課程において単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。

4. 語学能力検定試験

留学する場合、プログラムによっては留学先大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、受験予約が取りにくいことがあるので計画的に受験しましょう。また、募集開始から書類提出締切までの期間が非常に短いプログラムもあります。締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、短期・長期に関わらず留学を考えている場合は早めに受験し、有効期限を満たすスコアを常に所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

一般的に英語圏の大学への留学にはTOEFL iBTやIELTS (Academic Module) のスコアの提出が必要です。TOEICや英検(実用英語技能検定)は日本の就職活動等では広く用いられますが、海外大学への留学の際には語学能力証明として認められないケースも多いため、注意してください。また、TOEFL PBTやTOEFL ITPも公式スコアとして認められないケースがあります。

	TOEFL iBT	IELTS (Academic Module)
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、150を超える国と地域の11,000以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。2020年より、自宅受験できるTOEFL iBT Home Editionも開始。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するもので、一般的に、大学や大学院において英語で学びたい場合はAcademic Moduleの結果が必要となる。
スコア	0～120(1ポイント刻み)	1.0～9.0(0.5ポイント刻み)
試験日	ほぼ毎週末、年間50日程度(テスト会場受験の場合)	東京では毎月4回程度実施
受験料	US \$245(通常申込時)	27,500円
スコア有効期限	2年間	2年間

関連ウェブサイト: TOEFL <https://www.jp.ets.org/toefl.html> IELT <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

学内で開講している「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」(p31参照)では、日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策講座等の有料のプログラムを提供しています。留学応募前または留学が決まった後の英語力向上に活用してください。

英語圏外への留学

留学先の大学によって、必要な語学能力の基準が設定されている場合があります。下表に示す語学能力試験は一例ですが、一般的に日本語話者向けの検定(例:実用フランス語技能検定試験等)は海外大学への留学の際に語学能力として認められないケースも多いため、注意してください。また、語学能力試験によって有効期間が異なるので、必ず試験実施団体のウェブサイト等を確認しましょう。

(英語以外の語学能力試験例)

言語	語学能力試験
韓国語	TOPIK/KLAT
スペイン語	DELE
中国語	HSK
ドイツ語	TestDaF/Goethe-Zertifikat/Telc
フランス語	DEL F ・DALF/TCF/TEF

5. 安全と危機管理

海外では、慣れない場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺等、様々な被害に遭う可能性が高くなります。海外に留学するにあたっては、「自分の身は自分で守る」という意識と、そのために自ら情報を収集し、危機を回避することが鉄則です。東京大学では学生および教職員のための「海外渡航危機管理ガイドブック」を作成しています。海外に渡航する学生は必ず熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。海外渡航危機管理ガイドブック <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-safety.html>

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習等を行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください(健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防(ワクチン)接種、渡航先に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行等)。留学前には、外務省「海外安全ホームページ」を必ず確認してください。国・地域別の「危険情報」「感染症危険情報」、犯罪・事件・テロについての情報や、渡航・滞在における注意事項を発信しています。また、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施していますので活用してください。外務省「海外安全ホームページ」 <https://www.anzen.mofa.go.jp/> 保健センタートラベルクリニック <https://www.hc.u-tokyo.ac.jp/in-campus/>

所属学部・研究科での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。また万一生命、身体が危険にさらされるような事態が生じた場合は、渡航先の在外公館に援護を求めてください。現地で天災、感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

「在留届」の提出・「たびレジ」の登録

日本国籍の方が海外に3ヶ月以上滞在する場合は、「在留届」の提出が必要です。万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館は、この「在留届」をもとに

日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。また、3ヶ月以内の滞在では、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録しましょう。同省の専用サイトに必要事項(旅行日程・滞在先・連絡先)を登録することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能です。外務省ウェブサイト「海外渡航・滞在」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html>

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に、出発から帰国までの期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります(グローバル教育センター担当のプログラムについてはこれに該当します)。また、留学先大学等から指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて加入が必要です。※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意してください。

留学生危機管理サービス「OSSMA: Overseas Student Safety Management Assistance(オスマ)」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日、日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポート等となっており、希望する場合加入できます(一部プログラムでは加入が参加の条件となります)。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/study-abroad/ossma.html>

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。その他、プログラムの担当者、所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。



6. 留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いでしょう。留学も就職活動も悔いなく両立するためには、留学が就職活動に与えるとされるメリットやデメリット、就職活動をする年度の採用スケジュールや留学先で参加できる就職イベント等、事前の幅広い情報収集が重要です。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

就職活動のスケジュール(企業の採用情報公開の時期、面接等の選考開始時期)についてキャリアサポート室等を利用し、常に最新の情報を得られるように準備しておきましょう。

留学前に情報収集しておくこと

●就職活動のスケジュール ●帰国後の履修・卒業計画 ●外資系・ベンチャー企業等独自の採用活動を行う企業情報

情報収集の機会

●留学先の大学や都市のキャリアフォーラム ●各種キャリアガイダンス(キャリアサポート室主催)
●海外留学経験者向け就職情報サイト

大学の留学フェアを利用して留学経験者や留学担当者等から話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。留学先や留学から帰国する時期・卒業の予定等それぞれの事情にあわせて、自分の就職活動を考えてみましょう。本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学か進学か迷ったときや、企業分析や自己理解等の相談に専門のキャリアアドバイザーが個別に対応します(ただし、英語のエントリーシートの添削は行っていません)。OBOG訪問用名簿や先輩の進路情報もありますので、利用してください。キャリア相談およびOBOG名簿の閲覧は予約制ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

最新情報はキャリアサポート室ウェブサイトをご確認ください

<https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/>



学生体験記

氏名：水口 隼希さん
所属・学年(留学開始時)：工学系研究科社会基盤学専攻修士2年
留学先大学：ライデン大学
留学期間：2022年9月～2023年1月(5ヶ月間)
就職先の業界：総合商社

「働く」ことの意味・概念の異国での学び

私は留学前に就職先が決まっていたが、業界選択や企業選び等自分のキャリアの選択に自信を持たせてくれ、将来の視野を広くしてくれたのはこの留学だったと思います。日本で忙しく過ごす中、今後のキャリアや自分の生き方を見つめ直す期間として従来の価値観や社会システムと違う環境で生活することを目的に学部時代にデンマークにも半年、交換留学をしました。そして日本に帰国後の修士課程では、その際に感じた日本での働き方や人生の過ごし方に対する違和感、しかし同時に感じた日本の居心地の良さ、日本という国の素晴らしさ、友人らから聞いたりリアルな働き方、このすべての情報を咀嚼し、結論を出すこと(どこでどう働きたいか)に努めました。そして、明瞭でなくとも自分なりの答えを出しオランダに留学したわけですが、デンマークとさらに違い、むしろ働き方やキャリアに対するモノの見方において日本との共通点をオランダでの生活で感じました。また同時に、現地の友人との会話や生活を通じて、工学(国際協力学)という専門から離れ、かつ海外勤務という可能性がある将来の仕事を選ぶという自分の選択が、自分の納得の上であったという思いをより強くしてくれました。今後の自分の人生に更に期待感を感じさせてくれたオランダでの生活は、就活という人生のステップに対しての答え合わせの期間でもあり、同時に自分の今後の人生の道標になると思っています。価値観を広げたり、海外に住むとは具体的にどんなことなのか、漠然と海外について知ったりするという意味でも、少しでも海外に興味のある学生はぜひ一度留学に行くことをお勧めします。



7. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学や短期の留学といった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供等を行っています。

海外大学院のシステム

海外の大学院は、留学期間は異なりますが、大きく分けてGraduate Schoolと、Professional Schoolの2つの種類があります。Graduate Schoolでは、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、LawやBusinessに代表されるProfessional Schoolでは、職業に直結した教育を受けることができます。世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本と異なることが多いので十分な情報収集が必要です。大学院レベルで提供される学位は、修士号(Master's Degree)と博士号(Doctoral Degree or Ph.D.)があります。修士課程は、通常1～2年間の課程です。講義の履修だけで修了できるプログラム、修士論文を課すプログラム等、その形態は大学や学科によって様々です。博士課程は決まった年限を設けていないことが多いですが、概ね3～5年程度の研究期間を必要とします。修士号を必要とするプログラム、修士課程を経ずに直接出願可能なプログラムがあり、前者は修士課程で取得した単位を用いることができる場合もあります。後者

は修士課程・博士課程が一体となっているもの、修士号の取得をスキップするもの等、状況や希望に合わせて進路を選ぶプログラムも存在します。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

●Go Global ウェブサイト・ガイドブック

海外大学院留学プログラムに関する情報を随時紹介しています。また本ガイドブックの「留学にかかる費用と奨学金」(p42-43参照)で大学院留学に関する奨学金情報も提供しています。

●説明会等の大学院留学関係イベント

Go Global ウェブサイトやSNS(p40参照)で、海外大学や各国大使館等が主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

UT-OSAC (Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo)

東京大学の卒業生を中心とした団体であるUT-OSACでは、米国大学院学生会と協力し、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。詳細は米国大学院学生会のウェブサイトをご覧ください。

ウェブサイトにアクセス

<http://gakuiryugaku.net>



海外大学院留学説明会主催者から

南出将志

(2013年工学部社会基盤学科卒業 2014年工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了、2018年ペンシルバニア州立大学気象学部博士号取得 工学系研究科社会基盤学専攻助教/NASAジェット推進研究所外部研究員を経て、現在は東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻助教。)

私たちは海外大学院留学を就職、進学に次ぐ第三の選択肢と考えています。これは日本での「既定のコース」とは異なるためハードルが高く、あまり身近でない選択肢かもしれません。しかし、その先には刺激的で数々の体験と、大きく広がる世界観があなたを待っています。年2回(夏・冬)の説明会開催時には、世界トップクラスの大学院から多様な留学生や卒業生、教職員を講演者として招き、海外の大学院への出願方法や、利点、欠点、実際の生活の様子等を紹介しています。特に近年は、オンラインでの配信等、多様な形式の説明会を開催しています。留学を通じて世界で勝負してみたいみなさん、ぜひ上記の米国大学院学生会ウェブサイトをご覧ください。



大学院留学のスケジュールと必要なもの

海外の大学院への出願プロセスは、国内大学のものとは全く異なります。特に、米国やヨーロッパを中心として「GPA」「英語のスコア」「推薦状」「エッセイ」等を求められることが多いので、ここではそれらについて紹介します。具体的な点数や、そのほかに提出求められるもの等は、出願先によって大きく異なりますので、詳しくは出願先の大学院のウェブサイト等を直接確認しましょう。

- GPA: Grade Point Averageの略、授業成績の平均点を指します。後から取り戻せないものなので、早い段階から意識しておきましょう。
- 英語のスコア: TOEFLやIELTSが該当します。特に米国の大学院出願に必要なTOEFL iBTは、大学の講義や議論といった状況が想定されており、出願時だけでなく、進学後の英語対策にも効果的です。また、英語以外の共通試験として、米国のほとんどの大学院ではGREの受験が求められます。
- 推薦状: 計3通の提出を求められることが多いです。受験者の経験や能力、才能、人柄に関する記述が、具体的に書かれていることが大事なポイントとなります。自分の強みを多様な観点から評価頂けるように、先生方との関係を築いてください。
- エッセイ: 志望動機や、自分の研究での強み等をまとめた文章です。具体的に書けるように、専門分野の勉強を積み重ねましょう。
- その他: 研究業績(インパクトファクターの高い雑誌の筆頭著者論文等)や、外部奨学金等を持っていると高く評価されます。また、事前に受験先(指導教官の候補等)に連絡を取り、出願の意思表示をすると共に、自分の能力やどのような内容の研究が可能であるか等について、積極的な情報交換を行うことも非常に効果的です。

最終的な可否の判断は、これらの総合評価となります。出願年は出願書類や奨学金の応募書類、業績を上げるための卒業(修士)研究に集中できるように、それまでにGPAや英語のスコア等の準備を整えておきましょう。

8. よくある質問

【留学準備】

- Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか？
- A. （全学交換留学等長期留学の場合）留学のおよそ1年前に募集が行われるので、その時期に応募できるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。
- （サマープログラム等短期留学の場合）グローバル教育センターが担当するサマープログラムの場合、プログラムによって異なりますが、その年の1～2月および4～5月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。個人で応募するサマープログラムも、早いものでは2～3月に募集が締め切られるものもありますが、中には6月頃まで申し込み可能なものもあります。

【学籍・単位】

- Q. 1学期～1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか？
- A. 交換留学の場合、期間や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部を確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部を確認してください(p46-47参照)。
- Q. 現在休学しているのですが、全学交換留学や東京大学のプログラムに応募できますか？
- A. 留学時に休学から復帰が必要なプログラム、休学中でも留学可能なプログラムがあります。必ず各プログラムの担当部署や、所属学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

【応募条件・選考】

- Q. 前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか？
- A. できます。ただし、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で事前に説明を受けるようにしてください。
- Q. 英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか？
- A. 語学力向上目的のプログラムもありますので、Go Global ウェブサイト等でよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。
- Q. 全学交換留学の学内選考はどのように行われますか？
- A. 全学交換留学の派遣候補者は、所属学部・研究科を通じた申請を経て、学業成績・申請書の記述内容や面接等によりグローバル教育センターで総合的に選考審査され、決定されます。
- Q. Go Global ウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか？
- A. 東京大学では多くのプログラムで、自分の所属学部・研究科に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各学部・研究科で異なりますので、Go Global ウェブサイト上には記載されていないことがあります。各学部・研究科のウェブサイトや掲示板、窓口等で必ず確認するようにしてください。

【費用】

- Q. 留学に行く場合、費用はどのくらいかかりますか？
- A. （交換留学の場合）行く地域にもよりますが、日本で生活する場合とあまり変わらない程度の費用で留学することができる場合もあります。渡航費や生活費等は必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実しているので、費用を抑えて留学することも可能です(p42-43参照)。
- （サマープログラム等短期留学の場合）費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください(p14-16参照)。

【その他】

- Q. 各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか？
- A. 応募の倍率はプログラムによって大きく異なり、情報公開していない場合も多くあります。全学交換留学の場合は、Go Global ウェブサイトの各プログラムのページで応募状況や派遣実績を公開しています。人気が集中し倍率が高くなる留学先やプログラムもあるので、併願ができる場合は複数のプログラムに併願することをおすすめします。
- Q. 現在申し込もうと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験はどこで知ることができますか？
- A. まずは東京大学が公開している募集要項、留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトやパンフレットをよく読んでみてください。また、グローバル教育センターが担当するプログラムでは、Go Global ウェブサイト上に過去の参加者による詳細な報告書・留学体験記を掲載しているので、確認しましょう。派遣前のオリエンテーション等で過去の参加者と情報交換できる場合もあります。

留学体験記にアクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

- Q. 短期留学プログラム等に参加したいのですが、東京大学の授業や試験期間と時期が重なっている場合はどうなりますか？
- A. 海外の大学は6～7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くあります。自分の授業・試験日程等を応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東京大学の授業や試験に出席できない場合の扱いは、留学時の所属学部・研究科の判断によります。留学プログラム等への参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部・研究科の担当部署に事前に十分確認し、納得した上で参加申請を行ってください。
- Q. 留学について質問したいのですが、どうしたらよいですか？
- A. 現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。
- その他、留学に関する一般的な情報提供およびグローバル教育センター主催のプログラムに関する東京大学の学生からの質問はウェブサイトで受け付けています(p41参照)。
- また、特定の学問分野の留学事情等については、所属学部・研究科の担当部署や指導教員、先輩等に相談してみるのがよいでしょう。

Go Global ウェブサイトでは、よくある質問を随時更新しています



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-faq-index.html>



〔編集・発行〕 2024年4月1日／東京大学グローバル教育センター
〔E-mail〕 studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 〔Web〕 <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>